CSRの取り組み

ブラザーグループは、信頼され、未来永劫に繁栄し続ける企業を目指し、
長期的な視野に立ってグローバルなCSR経営を積極的に推進します。

INDEX

対談：つながり、広げながら、持続可能な未来へ種をまく …… 1

ブラザーグループのCSR …… 7

- ブラザーグループのCSR経営 …… 8
- ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則 …… 9
- コーポレートガバナンス …… 13
- 内部統制 …… 16
- コンプライアンス …… 18
- 情報セキュリティー …… 20
- ブラザーグループのCSR課題 …… 21
- CSR・ブランド戦略 …… 26
- 第三者意見 …… 27

お客様とともに …… 29

- お客様第一の製品開発 …… 30
- お客様ご迷惑率の低減 …… 32
- 安全・安心な製品設計 …… 33
- 物流・販売・サービス体制 …… 34

従業員とともに …… 35

- 多様な人財の確保 …… 36
- 多様な働き方の支援 …… 39
- 各地域での人財育成 …… 42
- グローバル人財育成 …… 43
- 労働安全衛生 …… 45
- グローバル憲章の共有 …… 48
- 従業員の「誇り度」向上推進 …… 50

ビジネスパートナーとともに …… 52

- CSR調達の推進 …… 53
- お取引先の声 …… 55

株主とともに …… 59

- IRコミュニケーション …… 60
- 外部からの評価 …… 61

地域社会とともに …… 62

- グローバルな社会貢献活動 …… 63
- 日本での社会貢献活動 …… 65
- 米州での社会貢献活動 …… 67
- 欧州での社会貢献活動 …… 68
- アジア・オセアニアでの社会貢献活動 …… 69
- 中国での社会貢献活動 …… 71

報告の範囲：ブラザー工業株式会社および国内・海外グループ会社
対 象 期 間：活動報告（実績）[2011年4月1日～2012年3月31日]
参考にしたガイドライン：GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第3版」

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

対談：つながり、広げながら、持続可能な未来へ種をまく

東日本大震災は、復興に向けて多くの人々が心をひとつにする素晴らしさを教えてくれる一方で、従来の考え方や価値観を見直す契機にもなっています。そうした中で復興支援に率先して取り組みながら、ご自身の体験をもとに社会へメッセージを発信されている加藤登紀子さんをお招きし、ブラザー工業社長　小池利和とともに持続可能な社会やCSR経営について話し合いました。

東日本大震災から1年余が過ぎて

小池：3月14日に、大津波で被災した宮城県の七ヶ浜<しちがはま>町(塩竈市の南)へ、手作りバッグ約2,300個、ブラザー製のセルフ発電型ライト500個、家庭用ミシン5台をお届けしてきました。七ヶ浜町とのご縁は、名古屋市に拠点を置くNPO法人が七ヶ浜町で献身的に震災復興に取り組んでおられて、私どもがそちらと協力関係を結んでいることもあり、つながりができたわけです。

加藤：どんないきさつで、そういった取り組みを？

小池：ブラザーグループでは、昨年の震災発生以降、世界各国のグループ各社が連携してさまざまな復興支援活動を続けていますが、その中で、家庭用ミシン事業を担当する部門の一部の従業員が、自発的にブラザーの創業の製品でもあるミシンを使った手づくり品を届けようとプロジェクトを立ち上げ、他の従業員にも製作の手引きを添えて参加を呼びかけました。すると、日本にとどまらず、海外の販売子会社・生産子会社、さらにはブラザーのミシンを取り扱っていただいている販売パートナー(ディーラーなど)や実際にミシンをお使いいただいているお客様までこのプロジェクトが広がりました。その結果、当初予定していた1,000個を大幅に超え、約2,300個以上が集まりましたので、七ヶ浜町内の小中学に通うお子さんや避難生活をされている方々にお届けしたわけです。環境にやさしく、長期保存にも向いているセルフ発電型ライトは、振動エネルギーを利用して振るだけで発電する「振動発電技術」を当社が開発し、それを応用したものです。一般的な電池が不要なので非常時に役立ちます。町長さんにも、たいへん喜んでいただきました。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

対談：つながり、広げながら、持続可能な未来へ種をまく

加藤：このセルフ発電型ライトは、すごいですね。ミシンといえば、私の母が洋裁を営んでいましたが、当時に比べると、いまのミシンはずいぶん便利になりましたね。

小池：ええ。被災地では、震災のショックや将来への不安などから、仮設住宅にこもりがちな方々が大勢いらっしゃいます。それはメンタル的にもよくないので、ミシンをお届けして、お互いに交流しながら何か創っていただければ、気分転換になりますし、手を動かしているうちに意欲も湧いてくるのではないかと。加藤さんがおっしゃったように、いまのミシンは糸通しも簡単にできますし、画像を取り込んで手軽にきれいな刺しゅうも楽しめます。操作方法をお教えした方には、機能の豊富さや使いやすさに、びっくりされている方もいらっしゃいました。ところで、加藤さんは何度も被災地に足を運んで、みなさんと交流していらっしゃいますね。

加藤：震災直後の被災地の状況をテレビで見て思ったのは、終戦後の自分です。幼い時に満州の収容所に入って、貨物列車に乗って引揚船で日本に帰ってきた自分の原点を思い出し、言いようのない懐かしさがこみ上げてきました。「この一瞬を生き切れるか」という瀬戸際にいる人たち、画面の向こうにいる人たちを見た時、言いようのない親しみを感じたんです。「あ、避難所でお母さんに抱っこされているのは、あの頃の私だ」と。その時に感じた近しさというのは、居ても立ってもいられないという思いで、それが力になって1週間後に『今どこにいますか』という曲をつくったんです。それは私の人生の中で、余計なことをすべて削り取った一番シンプルな自分、この世に生まれてトボトボ歩き出して、歌うことが大きなテーマになった。そういう自分の原点に立ち返らせてくれたという意味で、3.11は、私の人生で、とても重要な1日になりました。

それから何度か被災地に伺って、今年2月にも宮城県に行きましたが、あちこちで仮設市場が元気に始まったじゃないですか。「夢市場」とか「風市場」とか、地域独特の名前をつけてね。ああいうのが楽しいですね。大船渡市の市場では、誰かがボードウォーク(木の遊歩道)を送ったらしく、すごく雰囲気のいいコミュニティができていました。UNEPの親善大使を務めていた時、スマトラ沖地震で津波に襲われたスリランカとタイを訪問しましたが、やはり仮設住宅のまわりに大きな市場ができていて、Tシャツにプリントしたり、ミシンで衣服をつくったりして活気がありましたよ。

小池：私が七ヶ浜町で勇気づけられたのが、町長さんのお人柄でした。ご自宅が流されて親戚に身を寄せていらっしゃって、「ご自分の家は、いつ再建されるんですか？」と尋ねると、「町の高台移転の問題が解決して、仮設住宅が全部なくなってから考えます」とおっしゃる。ああ、いまの世の中にもこんな立派な人がいるんだと感心しました。ことし町長選があって無投票当選でしたが、これから4年間も頑張らなきゃいけないわけです。そんな状態で、よくがんばっておられるなと。

加藤：私も、東北では「人として、ちゃんとしてる」と感じる方々に何人も出会いました。町長さんも、まさに、そんなお一人ですね。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

対談：つながり、広げながら、持続可能な未来へ種をまく

アジアで考えた、エネルギーや環境のこと

小池：加藤さんには、2010年のCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)併催イベントとして行われた「インクカートリッジ里帰りプロジェクト」からの寄付金贈呈式に、UNEP親善大使としてブラザーコミュニケーションスペースにお越しいただきましたね。

加藤：その節は、ありがとうございました。あれから「里帰りプロジェクト」の進展は、いかがですか？

小池：プリンターメーカー6社が郵便局や一部の自治体を回収窓口に、使用済みのインクカートリッジを回収・リサイクルしていますが、年間約160万個を再資源化しています。また、ブラザーグループでは、ヨーロッパ・南北アメリカ・アジアでそれぞれ独自の回収・リサイクルシステムを構築してカートリッジを回収・リサイクルしています。ところで、3.11以降、エネルギー問題が社会の大きな関心事になっていますが、加藤さんは1970年代に、ご主人と千葉県に「鴨川自然王国」を創設され、ご自身の経験を通して、こうした問題に積極的に発言されてこられました。そんな加藤さんが、いま関心をお持ちのエネルギーはなんですか。

加藤：本気で考えているのは、小水力(マイクロ)発電です。鴨川の近くでやりたいなと思って、いま研究しているところなんです。昨年、友人たちとブータン王国を訪問したんですが、この国は電力自給率が400%もあって、インドへ電気を輸出しているのだそうです。その電力源は、険しい山とヒマラヤの豊かな雪解け水を利用したマイクロ水力発電で、日本のように大量の電力を消費する大都市も巨大な産業もないから大規模なダムをつくる必要がない。そんな説明を聞いて「ああ、そうなのか」と得心しました。確かに経済の規模も、国の事情も違うけれど、日本も山の国で、渓流もたくさんあるし、雨も多いのだから、これは大きなヒントになるんじゃないかと考えまして。

小池：なるほど。ヒマラヤといえば、地球温暖化の影響で氷河湖が解けて、ふもとの村が洪水の危機に直面しているという話を聞きますが、温暖化防止に向けての取り組みはブラザーグループの大きなテーマです。そこで、私どもでは「Brother Earth」という世界共通のスローガンを掲げて、製品の省エネ性能向上や国内外の生産拠点・事業所でCO_2排出量の削減目標を設定して懸命に取り組んでいます。

加藤：それに加えて、自分たちの生活エリアの中で電気が自給できるような製品ができるといいですね。バッテリー容量の課題はありますが、セルフ発電型ライトなんて、とても大きな可能性を秘めていると思います。ぜひ大きく育ててください。

小池：そうですね。携帯電話などもバッテリー切れがあるので、わざわざコンセントに差さなくても、振れば発電・充電できればいいなと、うちのエンジニアが将来への幅広い応用を夢見てチャレンジを続けています。それから、最近では新規事業として、クラウドを活用した高品質の「Web会議システム」分野に参入しましたが、こちらも長距離の出張など人の移動に伴うエネルギー消費を抑えられますから温暖化防止はもちろん、効率的な時間活用でワークライフバランスの改善にも貢献できますね。

加藤：相手の立場で考えて工夫する日本の技術は、ほんとうにすごいと思います。
いまアジアは近代化を急ぐあまり豊かな自然が失われつつあって、日本が少し前に経験した同じような道をたどっています。ただ、日本は環境問題の失敗から多くのことを学び取ってトップクラスの環境技術を会得しました。それをアジアに広めていけば、美しい自然を守れるし、ビジネスチャンスにもなり、現地の人たちにも感謝されるでしょう。そんなところにも、「Brother Earth」の考え方を波及させてほしいです。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

対談：つながり、広げながら、持続可能な未来へ種をまく

つなげて、広げて、持続可能な未来へ

小池：それにしても、加藤さんはデビューされて47年というのに、ほろ酔いコンサートなどのツアーに加えて、テレビ・ラジオ出演、本の執筆や対談、鴨川自然王国のお仕事・・・と八面六臂の大活躍ですが、その原動力は何ですか？

加藤：すべて運命だと思うんです。自分から積極的にではなく自然にそうなるんですよ。昔から川が好きで、川と一緒に遊んでいることが多かった。川の水って不思議で、ワ〜ッと流れていくけど、同じところから流れてきても、どこへ行くかはいろいろでしょう。川に葉っぱを流していると、岩にぶつかったり、クルクル回って行き悩んだりするけど、何かのはずみで流れていく。「私も、そういう人だな」って思うんです。呼ぶ人がいて「来てください」って言われると、「あ、行ける」と、そんなシンプルな思いで自分のやることを決めているだけなんです。

だから、何か出会った時に、素直に向き合っていく。偶然の出会いに対して、誠実に、できる限り足を運んで、やれることをやろうと。結局、そのように流れて来ているんですが、ちゃんと出会ったこと、丁寧に出会ったことは、10年、20年経っても絶対に消えていないですね。20年前にコンサートに来てくれた人が被災地のコンサートにも来てくれて「あの頃は、楽しかったね」と、当時のことをありありと覚えててくれて、私も覚えている。長い歳月の中で手紙も出さない関係だったのに、「ああ、20年前とつながっていたんだ」という発見が、去年はものすごくありました。

だから、今まで出会った人たちに対する精一杯の気持ち、これから偶然に出会える人たちに対する気持ちがすごく変わりました。私がそれまで生きてきた年月があって、そこには伏線というか、伏流水というものが流れていて、泉になって出てきたことを体験できた嬉しさがある。だから、何十年も歌ってきてよかったなあと、心から思います。

小池：ブラザーにもいまのお話と似たところがあって、104年前に輸入ミシンの修理業で創業して、「輸入産業を輸出産業にする」と志してミシンの国産化に成功し、やがて、編み機、タイプライター、さらに、工作機械、プリンター、複合機と時代の流れを先取りしながら、どんどん主力製品が変化していきました。そして、今では売上の約8割が海外で、40を越える国と地域で製品を販売しています。この間には、数え切れないほどの失敗もありましたが、先人たちはそれに臆することなくチャレンジを続けました。ですから、私どもの考え方は「過ぎたるは及ばざるが如し」ではなく、とにかく過ぎても何でもいいから、いっぱいやって、その中で失敗があれば素早く修正して生き残れるよう流れを変化させていくことが重要なんです。そうしなければ世の中の動きについて行けません。

加藤：いま例に出されたミシンとプリンターなどは、技術的なつながりというか、系譜のようなものをたどれるんですか？

小池：そうですね。ある製品を開発した時に派生的に生まれた技術が、やがて太い枝になり、花を咲かせて実が成る、といったイメージですね。それを繰り返しながら樹齢を重ねた大木のような事業、まだ細いけれど伸び盛りの若木のような事業が互いに関連しあって、ブラザーという大きな森を形成しています。そして、どの樹木にもブラザーの遺伝子が連綿と受け継がれていて、成長を続けているわけです。これは従業員にもあてはまることで、さまざまな世代・人種・国籍の人たちが、互いに誇りや尊敬の念を持って「グローバルチーム・ブラザー」という連帯のもとで仕事に取り組んでいます。また、それがあってこそ、働きがいのある会社であり続けられるし、未来永劫、成長し続けられると信じています。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

対談：つながり、広げながら、持続可能な未来へ種をまく

加藤：つないで広がるという意味では、私のテーマと重なりますね。昨年「命結(ぬちゆい)」というCDを出したのがきっかけで、この言葉を「命結」を私のテーマにしていこうと決めたんです。「命(ぬち)」は沖縄の方言で、「結(ゆい)」は営みを続けるための結びつきを表す古語です。この2文字をくっつけたのは私の創作なんですが、そこには「人がバラバラにならず結んでいこう」という意味だけではなく、「過去を未来に結びつけよう。それは命のバトンリレーなんだ」というメッセージも込めて歌い続けているんです。

日本は過去をどんどん切り捨ててきた国ですが、世阿弥が花伝書で説いた「不易流行」の普遍的なもの(不易)は、次の世代にきちんと引き渡していくべきだし、ブータン王国のように最新テクノロジーを積極的に導入する一方で、昔ながらの伝統や習慣はしっかりと守り続けていく考え方は見習いたいものです。そのように過去をきちんと未来につなげていくことが、私たちの世代の役割だと思います。ですから、私は100歳まで歌い続けるつもりです。(笑)

小池：私も、60歳を過ぎても簡単にリタイアせず、シルバー・ボランティアとかどんな形であれ、現役を続けていくことが国の活性化につながっていくと信じています。本日はありがとうございました。

2012年3月

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

対談：つながり、広げながら、持続可能な未来へ種をまく

ブラザー工業株式会社 代表取締役社長

小池 利和

プロフィール

1955年、愛知県一宮市生まれ。早稲田大学政治経済学部を卒業後、1979年にブラザー工業に入社。1982年、ブラザーインターナショナルコーポレーション(U.S.A.)に出向。タイプライターやミシンなどが主力商品の時代に、プリンターの試作機を持って全米各地をセールスし、ブラザー情報通信機器の基盤を開拓。2000年に同社取締役社長に就任し、2005年に帰国。2007年から現職。愛称は「テリー」。社内ブログで、社長メッセージから身近な体験まで幅広く発信している。趣味は、ワイン・音楽・ハイキング・歴史探訪・ゴルフ・スポーツ観戦・将棋と多彩。iPodにフォークソングから最新のヒット曲まで9,000曲を入れ、時間が許す限りコンサートにも出かける。モットーは「明るく、楽しく、元気に」。

対談お客様

歌手

加藤登紀子さん

プロフィール

1943年ハルピン市(中国東北部)生まれ、'46年に日本に引き揚げ。東京大学在学中にアマチュアシャンソンコンクールに優勝し、'65年に歌手デビュー。以来、シンガーソングライター、作詞・作曲家、女優・声優など幅広く活躍。「ひとり寝の子守唄」(日本レコード大賞歌唱賞)「知床旅情」「琵琶湖周航の歌」「百万本のバラ」など数々のヒット曲を送り出し、「難破船」(中森明菜)「わが人生に悔いなし」(石原裕次郎)など提供曲も多数。'88年に日本の女性歌手初のカーネーギーホール公演。この間、学生運動のリーダーだった藤本敏夫氏('02年他界)と獄中結婚。'73年に長女を出産・育児の過程で、農業をとりまく環境問題への関心を深め、千葉県鴨川市で田畑を開墾。「鴨川自然王国」を立ち上げ、循環型社会に向けた活動を続ける。2000年～10年までUNEP(国連環境計画)親善大使として世界各国を訪問。現在、WWF(世界自然保護基金)ジャパン評議員、佐渡トキ環境親善大使。東日本大震災の直後から被災地でコンサートを開催して復興支援を行う傍ら、著書やコンサートなどを通じてエネルギー問題や持続可能なライフスタイルについて積極的に提言。三女の母、「おときさん」の愛称で親しまれている。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループは、「ブラザーグループグローバル憲章」
の浸透を通じて、すべてのステークホルダーから尊敬され、
従業員にとって心の底から
「誇りの持てる企業」となることをめざします。

ブラザーグループのCSR経営

・すべてのステークホルダーから信頼され、従業員
にとって誇りの持てる企業を目指して

ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則

・「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」の
制定にあたって

コーポレートガバナンス

・ブラザー工業のコーポレートガバナンス体制
・リスクマネジメント

内部統制

・体制の整備と継続的なレベルアップ
・地域統括会社と連携し内部監査を実施

コンプライアンス

・コンプライアンス体制
・コンプライアンス ハンドブックを発行

情報セキュリティー

・情報を適正に管理・保護するために
・アジアの開発・生産拠点における情報リスク対応強化

ブラザーグループのCSR課題

・2011年度の課題と実績・2012年度の課題

CSR・ブランド戦略

・グローバルにCSRを推進し、信頼のブランドを確立
・「グローバルCSR・ブランド戦略会議」を開催

第三者意見

・ブラザーグループの2011年度のCSRへの
取り組みに対する第三者意見

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

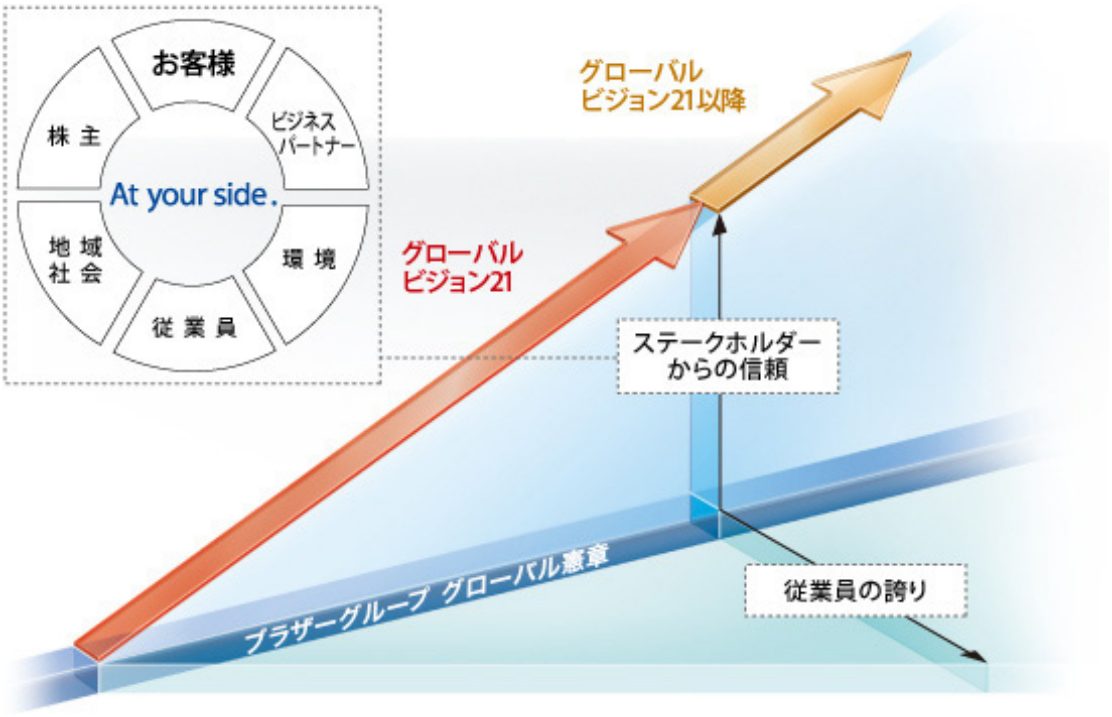
ブラザーグループのCSR経営

すべてのステークホルダーから信頼され、従業員にとって誇りの持てる企業を目指して

中長期的な視野に立ってグローバルなCSR経営を推進

ブラザーグループは、中長期的な視野に立ってグローバルなCSR経営を推進することで、さらなる事業の成長を目指すとともに、「Brother」を、お客様をはじめとするすべてのステークホルダーから信頼されるグローバルなブランドとして確立　すること、そして、従業員にとってブラザーグループが心の底から「誇りの持てる企業」となることを目指しています。

こうした考えのもと、ブラザーグループはステークホルダーから信頼される活動を一つ一つ積み重ね、持続的に成長していきます。



ブラザーグループのCSR経営

ブラザーグループは1999年、グループ各社とグループ従業員の日々の意思決定と実行に関する「基本方針」と「行動規範」から成る「ブラザーグループ　グローバル憲章」を制定しました。このグローバル憲章はお客様への優れた価値の提供」を重視しており、お客様を第一のステークホルダーと位置付けています。

ブラザーグループは、グループ全体でこうした「お客様第一」の姿勢を貫くことで事業を成長させてきました。それによって、ブラザーグループがお客様をはじめとするさまざまなステークホルダーに与える影響も拡大し、それに伴いステークホルダーからの「要請や期待」も拡大しています。こうした中、ブラザーグループは2008年度、ステークホルダーからの要請や期待に応えていくことを、さらなる成長の推進力とし、

・中長期的な視野に立ち、“At your side.”の精神でさまざまなステークホルダーからの要請や期待に対して責任を果たすこと
・それらを経営の新たな機会として捉え行動を起こすこと

をCSR経営の2本柱として定め、グループ各社が世界各地で自律的に取り組むことでグローバルに推進していくこととしました。こうしたCSR経営によって、ブラザーグループは、中長期ビジョン「グローバルビジョン21 」を達成していきます。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則

「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」の制定にあたって

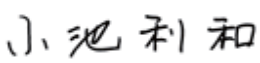
ブラザーグループでは、グループがグローバルに展開するすべての活動の礎であり、グループ各社とグループ従業員の日々の意思決定と実行に対する「基本方針」と「行動規範」から成る「ブラザーグループ　グローバル憲章」を1999年に制定しました。「ブラザーグループ　グローバル憲章」では、お客様をはじめとするステークホルダーの皆さまに対するブラザーグループの責任を明確にし、グループ各社とグループ従業員が、それを実践することでCSR経営を推進して参りました。

一方で近年、持続可能な社会の実現のために、企業が社会のなかで果たすべき役割と責任はますます重要性が増し、ブラザーグループに対するステークホルダーの皆さまからの要請や期待もさらに高まってきております。

こうした変化に対応し、企業としての責任を明確に定義し行動していくために、「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」を制定しました。これは、グループ各社が負う責任と行動の根本的な考え方を表明するものです。

本原則に基づき、ブラザーグループが一丸となって、事業を展開する全ての国や地域で求められる社会的責任を果たし、グローバルに統一感あるCSR経営を、積極的に推進していきます。そして、「Brother」というコーポレートブランドが、全てのステークホルダーの皆さまから信頼されるブランドとなること、ブラザーグループが、従業員にとって誇りの持てる真のグローバル企業として、社会とともに未来永劫に繁栄し続けることを目指します。

012年1月27日
ブラザー工業株式会社
代表取締役社長　小池 利和



ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則

A. 健全な労働環境

ブラザーグループは従業員に健全な労働環境を提供することの重要性を認識し、すべての人に対して信義と尊敬を持って接し、基本的人権を守ります。また従業員にも同様の行動を求めます。

1. 差別および非人道的扱いの禁止

ブラザーグループでは、以下の差別および非人道的行為を禁じます。

(1) 人種、年齢、性別、性的指向、妊娠、政治的信条、組合への加入、配偶者の有無、国籍、民族的背景、宗教、障がい等を理由にした違法な差別。

(2) ハラスメントや嫌がらせ、体罰、精神的・肉体的強要、またはかかる対応を振りかざす行為によって人間の尊厳を傷つける行為。

2. 公正適法な労働慣行の維持

ブラザーグループは、労働時間、休暇、賃金、手当(最低賃金を含む)、残業等の労働条件について定めた現地の法令、管轄官庁の指導、または適切な現地の業界慣行に従うよう努めます。

3. 結社の自由

ブラザーグループは、活動する国や地域において法令によって従業員に認められる、結社の自由、労働組合に加入する権利、代表を要求する権利および労働者協議会に加入する権利を尊重します。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則

「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」の制定にあたって

4. 強制労働及び児童労働の禁止

ブラザーグループは、以下のような、本人の自主的な意思に反し労働を強制したり、児童を雇用したりすることを許容しません。

(1) 強制労働または意志に反する囚人労働を利用すること。

(2) 雇用の条件として公的に発行された身分証明書または労働許可証の引渡しを義務づけること。(身分確認や公官庁での手続きのために一時的に提出を求めることは除く)

(3)15歳未満の者(または当該国の法律が14歳の就労を認めている場合は14歳未満の者)および現地の法律が定める義務教育修了年に満たない者を雇用すること。

(4)18歳未満の従業員が健康と安全を危険にさらす業務を遂行すること。

5. 懲戒方針の明示

ブラザーグループは、懲戒方針を設ける場合は、その手続きと共に社内規程に明記し、従業員に周知します。

6. 内部通報

従業員が、本原則、各社の行動基準、その他の社内方針、現地の法令への違反行為を見聞きした場合は、その旨をブラザーグループ内のしかるべき立場の者まで通報することを勧めています。本原則、社内方針、適用される法令に対する違反行為が適正に通報された場合、ブラザーグループは、必要に応じ、かつ現地の法律で認められる限り、通報者の匿名性を守ります。また違反行為を通報した者に対し、従業員が報復的な措置を取ることを禁じます。

B. 職場の安全衛生

1. 職場の安全

ブラザーグループは、関係法令に従い、安全で衛生的な職場環境を整備します。またブラザーグループは、職場における従業員の健康と安全を守るために、以下の措置を講じます。

(1)肉体を酷使する作業、電気その他のエネルギー源、火災、車両、化学物質や生物的・物理的因子への曝露などの潜在的な危険を査定し、適切に管理する。

(2)安全対策を施し適切に設計された職場を維持管理するとともに、必要な安全用具を常備する。

(3)安全作業手順・制度を実施する。また従業員教育を継続するとともに、労働災害・労働疾病の予防、管理、追跡、報告のための制度を設ける。

(4)避難訓練や復旧計画など、緊急事態および事故の発生を想定した対策ならびに対応手順を導入する。

2. 衛生的な設備

ブラザーグループは、従業員およびブラザー社内で働く第三者のために、清潔なトイレおよび給水設備を整備します。また調理・飲食施設がある職場では、かかる施設を衛生的に保ちます。

寮がある場合は、十分な維持管理を行い、清潔・安全に保ちます。また適切な非常口を設けるとともに、シャワー用の設備、適切な温度および換気設備、個人スペースを提供します。なお、以上についてはいずれも各国や地域の基準に準ずるものとします。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則

「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」の制定にあたって

C. 地球環境の保全

ブラザーグループは、ブラザーグループ環境方針を定め地球環境の保全に努めます。具体的には、持続的発展が可能な社会の構築に向け、設計から開発、生産、使用、廃棄、再利用、再生に至る製品ライフサイクルの各段階を含む企業活動のあらゆる面で、必要とされる環境上の許可証、認可を取得するとともに、製品に含まれる物質の規制など国内外で適用されるすべての環境関連法令を順守します。さらに、汚染防止策や省資源化に努めます。

D. 倫理的誠実な事業活動

ブラザーグループは、企業活動のあらゆる面において、最高度の倫理観を持ち、最大限の誠意を尽くして行動します。

1. 公正な取引

ブラザーグループは、活動を行う国や地域において適用される公正な取引や市場競争に関する法令を順守し、市場での公正かつ自由な競争を阻害するような行為は行いません。また物品やサービスの調達に当たっても調達先の選定や取引条件の決定を公正に行います。

2. 適正広告

ブラザーグループは、関係する適正広告基準を守ります。誤解を招くような内容や、事実と異なる内容の広告を行わないよう努めます。

3. 不正便宜の禁止

ブラザーグループは、形式の如何を問わず、汚職、強要、横領に一切かかわりません。また賄賂はじめ過剰または不適切な便宜を供与したり、受けたりしません。

4. 偽りのない正しい企業情報の記録及び開示

ブラザーグループは、財務関係記録を始めとする全ての必要な記録および報告を正確かつ適時に作成し、保管します。

また、ブラザーグループは、関係法令に従い、株主、投資家および資本市場が十分な情報を得た上で投資判断を下すことができるように、財務状況ならびに事業情報を正確かつタイムリーに開示します。

さらに、ブラザーグループは、従業員が、新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、インターネットメディア等に一個人として情報を発信する場合に、それがブラザーグループの公式見解と誤認されることがないよう、従業員に適切な行動を求めます。

5. 情報管理

ブラザーグループは、厳格な情報管理制度を運用し、従業員が、ブラザーグループ各社、その他の組織、またはお客様に関する機密情報を、本人の承諾を得ずして、不法に第三者に開示することがないようにします。

6. 個人情報保護

ブラザーグループは、お客様、お取引先、および従業員のプライバシーを尊重し、現地のプライバシー関連法に応じて、個人情報へのアクセスの制限や、セキュリティー対策を講じます。またブラザーグループは、お客様や従業員の名簿を含む個人情報を安全に管理するとともに、現地の個人情報保護法および自社のプライバシー保護方針の下で認められた場合を除き、または別途許可を受けた場合を除き、個人情報を入手しません。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則

「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」の制定にあたって

7. インサイダー取引の禁止
ブラザーグループは、従業員に違法なインサイダー取引にかかわらないことを求め、インサイダー取引を予防する措置を講じます。違法なインサイダー取引とは、一般的に、ある株や証券についての重大な事実を知る者が、その事実が公表される前に当該株や証券を売買する行為を指します。

8. 知的所有権の保護
ブラザーグループは、ブラザーグループの知的所有権(特許権、商標権、著作権を含みますが、これだけには限定されません)の確保、維持、充実に努めます。また第三者の知的所有権を尊重します。ブラザーグループは、故意に他者の知的所有権を侵害しません。

E. 本原則実践のための社内体制

ブラザーグループは、本原則を実践するために、以下の各号を目的とする体制を整備します。

(1) ブラザーグループ各社にて、本原則で定める水準を満たす各社の行動基準及び社内規程等を制定し、従業員にその順守を求める。

(2) 本原則および各社の行動基準の運用はブラザーグループ各社の組織に応じ責任部門を明確にする。

(3) 従業員が各社の行動基準を順守するための教育を継続的に行う。

(4) 本原則および各社の行動基準が順守されていることを確認するために定期的に監査を行う。

(5) 監査の結果、問題が発見された場合は、適時その解決をはかる。

ブラザー工業株式会社の法務担当執行役員は、ブラザーグループ各社における上記体制の実施状況を確認し、統括するとともに、社内体制のあり方を適宜に見直すものとします。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

コーポレートガバナンス

ブラザー工業のコーポレートガバナンス体制

監査役制度と執行役員制度を採用

ブラザー工業では、ガバナンスの基本として監査役制度を採用し、取締役の職務執行を監査役が監査する体制を整えています。また、社内組織としての執行役員制を導入することによって、業務執行と監督を分離し、意思決定の迅速化とガバナンスの強化を図っています。執行役員は取締役会で選任され、それぞれが担当する各部門、社内カンパニー、グループ子会社の業務執行に対し責任を負っています。

取締役会

取締役会は取締役6名(うち社外取締役4名)で構成され、毎月の定例取締役会のほか、必要に応じ開催される臨時取締役会において、経営上の重要事項の決定と業務執行の監督にあたっています。また、一部取締役は、戦略会議を通じて、部門の業務範囲に関する戦略立案および指導にあたっています。務執行に対し責任を負っています。

▶役員一覧はこちらをご覧ください。
http://www.brother.co.jp/corporate/profile/index.htm#board

監査役会

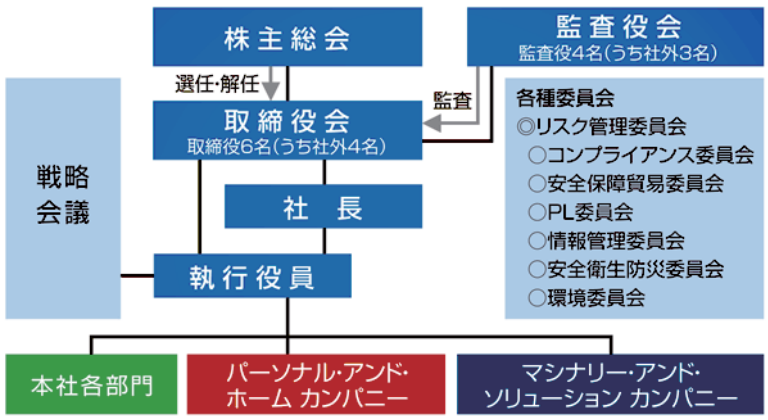
監査役会は監査役4名(うち社外監査役3名)で構成され、各監査役は、監査役会で定めた監査基準に従って、取締役会などの重要会議に出席して意見を陳述するほか、監査役スタッフを用いて業務および財産の状況を調査するなどして、取締役の職務執行を監査しています。

▶役員一覧はこちらをご覧ください。
http://www.brother.co.jp/corporate/profile/index.htm#board

戦略会議

戦略会議は、役付執行役員を中心として構成され、経営戦略の立案およびグループ運営にかかわる重要事項を含む業務執行について審議しています。

ブラザー工業ガバナンス体制図 (2012年7月現在)



ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

コーポレートガバナンス

ブラザー工業のコーポレートガバナンス体制

リスク管理体制

ブラザーグループのリスク管理体制の整備を行うために、ブラザーグループ全体の重要なリスクを識別、評価し、適切な対応指示を行う独立した経営管理組織としてリスク管理委員会(委員長：代表取締役社長)を設け、内部統制と危機管理を含むリスク管理体制の充実を図っています。
また、リスク管理委員会を頂点に、その下部組織として以下の個別リスク委員会を設置し、それぞれの個別リスクに対応して、グループの重要なリスクを総合的にマネジメントしていく体制としています。発生時の影響が最高レベルと評価されたリスクについては「危機対応段階」と見なし、優先的に対応します。

コンプライアンス委員会

コンプライアンス(法令・企業倫理等の順守)に関しての教育/啓発活動により、コンプライアンス意識の向上を図るとともに、コンプライアンス相談通報窓口の設置・運営を通じて違反行為の予防・再発防止に取り組んでいます。

安全保障貿易委員会

輸出貿易管理に関する法規制に基づいて、適切な輸出取引や技術提供の管理にあたっています。また、法改正時の重要な案件審議のための委員会開催や半期ごとの社内監査、グループ会社への指導・教育によって、ブラザーグループ全体の管理水準の維持・向上に努めています。

PL委員会

安全な製品づくりと迅速かつ適切な製品事故対応に努めています。また、必要に応じて委員会を開催し、製品安全対応の周知徹底を図っています。

情報管理委員会

情報漏えいリスクなどに対応するために、会社に存在する情報および顧客情報の適切な管理方針を定め、グループ内への展開をしています。

安全衛生防災委員会

従業員の安全や健康の確保、災害の予防や災害時の被害の最小化を目的として、これらに関する年間計画の審議、各施策の策定・実施、啓発などの活動を行っています。

環境委員会

ブラザーグループ全体で取り組まなければならない環境課題に対する施策を審議・決定しています。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

コーポレートガバナンス

リスクマネジメント

多様なリスクを把握し、適切に対処するために

ブラザーグループでは、事業活動に伴う多様なリスクを把握し、適切に対処するために、「ブラザーグループリスク管理規程」を定め、リスク管理委員会を設置するとともに、部門・地域・グループ会社ごとにリスク責任者を任命しています。責任者は、想定されるさまざまなリスクについて影響度・発生頻度をそれぞれ5段階で評価。経営に大きな影響を与える可能性のある重大リスクを選別し、その対応策を検討しています。こうしたPDCAサイクルに基づいた活動によって、危機意識醸成と対応力強化を図っています。

2011年度は、リスク管理委員会を2回開催し、重要リスクを見直すとともに、取締役会に各委員会の活動状況を報告しました。今後も、引き続きリスク管理体制の整備を進めていきます。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

内部統制

体制の整備と継続的なレベルアップ

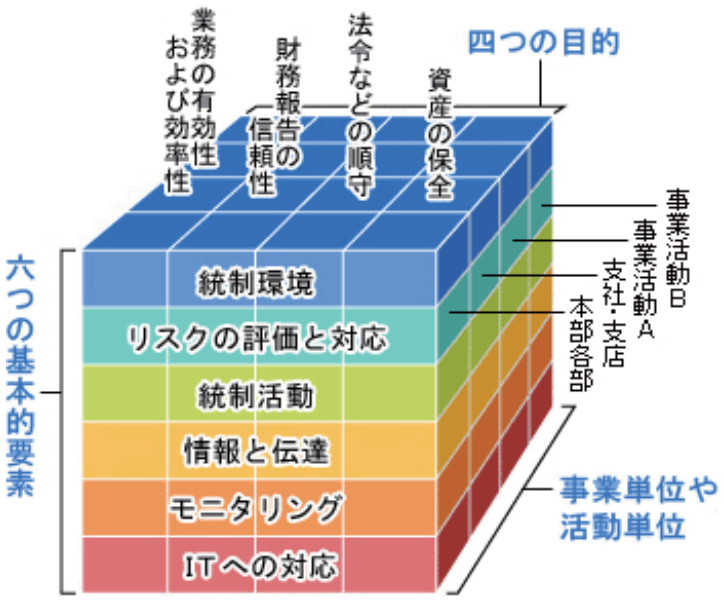
財務報告の透明性と信頼性を確保するために

2006年5月の新会社法施行や、2009年3月期からの内部統制報告書提出義務化など、社会は企業の財務報告にいっそうの透明性・信頼性を求めています。ブラザーグループは、これを業務の効率化、リスク対応力の強化、グループ経営の推進、ひいては企業価値の向上を図る好機ととらえ、体制の整備を進めました。

こうした中ブラザーグループ各社は、毎年、内部統制が有効に機能しているかどうかをチェックリストなどで自己点検し、さらに内部監査部門が、独立的な観点からの監査を実施することで、継続的な内部統制の向上を図っています。また、内部統制の目的や重要性、グループの活動状況などを共有するためのホームページをイントラネットに開設したり、グローバルベースでe-ラーニングを通じて理解を更に深めてもらうなど啓発活動を積極的に行っています。

今後も、経営を支える重要なインフラのひとつである内部統制の維持・向上を図ることで、社会からの要請である「財務報告の透明性と信頼性」の確保に努め、多くのステークホルダーから継続して高い信頼をいただけるよう努めてまいります。

内部統制のフレームワーク



ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

内部統制

地域統括会社と連携し内部監査を実施

内部統制のPDCAサイクル確立・向上を目指して

ブラザーグループでは、2011年度に、米州・欧州・亜州の地域統括会社と連携し、国内4社・海外9社のグループ会社を対象に内部監査を実施しました。これは、内部統制に関わるPDCAサイクルをより確かなものとし、業務のさらなる透明化・効率化、リスク対応力の強化を図るためのものです。
ブラザー工業と地域統括会社の内部監査部門が密に連携をして監査を行っており、より現地の実態に則した監査を実施できました。さらに、今後ますますグローバルで重要となる内部監査機能の強化を図ることを目的として、2012年2月に「グローバル内部監査会議」を開催しました。米州・欧州・亜州の地域統括会社、ブラザー工業内部監査部・財務部・IT戦略推進部から総勢20名ほどが参加しました。

今後は、(1)自己点検による現場部門の内部統制にかかわるPDCAサイクルの自律化　(2)改善策の組織/会社横断的な展開によるグループ全体のレベルアップ　(3)ブラザー工業・地域統括会社・グループ会社・各部門の連携・情報共有による監査の効率化などを目標に、内部統制機能の維持向上を図ります。

グローバル内部監査会議

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

コンプライアンス

コンプライアンス体制

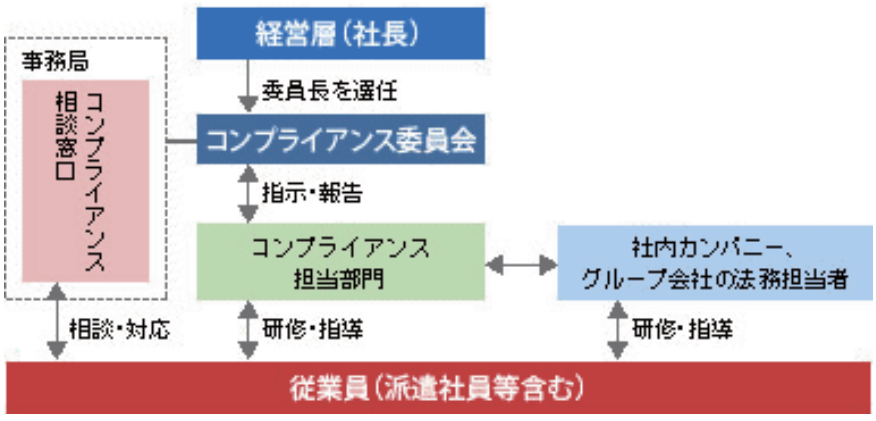
CSR経営の基盤として法令・倫理の順守を徹底

ブラザーグループは、コンプライアンス(法令・倫理の順守)がCSR経営の基盤を支え、さまざまなリスクを回避する上で不可欠なものであると考えています。グループ全体でコンプライアンスを徹底するために、「ブラザーグループ　グローバル憲章」の行動規範のひとつである「順法精神・倫理観」に基づいて従業員の行動基準を定めています。また、コンプライアンス委員会を設置し、相談通報窓口(ヘルプライン)を設けて不祥事の未然防止や早期対応、再発防止に努めています。海外を含むグループ各社の窓口で受け付けた相談案件がブラザー工業のコンプライアンス委員会にも通知され、グループとしてリスク対応を一元化する取り組みが進んでいます。

教育面では、グループ各社での集合研修のほか、コンプライアンスのe-ラーニング教材を制作し、グループ各社で実施しています。

また、コンプライアンスの意識向上を図るため、ブラザーグループの全従業員を対象に、「コンプライアンス　ハンドブック」を作成・配布をしております。今後も、グローバルな展開を視野に入れて引き続き活動を続けていきます。

CSR経営の基盤として法令・倫理の順守を徹底



ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

コンプライアンス

コンプライアンス ハンドブックを発行

国内グループ従業員の意識向上に向けて活動を強化

ブラザーグループでは、従業員のコンプライアンス・倫理意識の向上を目的に、「コンプライアンス　ハンドブック」を発行し、国内グループ会社の全従業員に配布しています。

このハンドブックには、「ブラザーグループ　グローバル憲章」に基づくコンプライアンス行動基準、具体事例集に加え、クイズ形式による学習項目に多くのページを割き、従業員が自習できるような内容になっています。

コンプライアンス体制のグローバル展開として、中国などのグループ生産拠点での体制整備状況の把握を行い、情報共有を進めています。また、2010年度に行ったコンプライアンス意識調査の結果を踏まえて、相談窓口の改善を行っています。さらに、2011年度のe-ラーニングも、国内グループの全従業員を受講対象として2回実施しています。

今後も、「ブラザーグループ　グローバル憲章」ならびに、2012年1月に制定した「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」を基礎として、グローバル視点でのコンプライアンス体制および教育を強化し、企業不祥事の未然防止や倫理意識のいっそうの向上に取り組みます。

コンプライアンス ハンドブック

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

情報セキュリティー

情報を適正に管理・保護するために

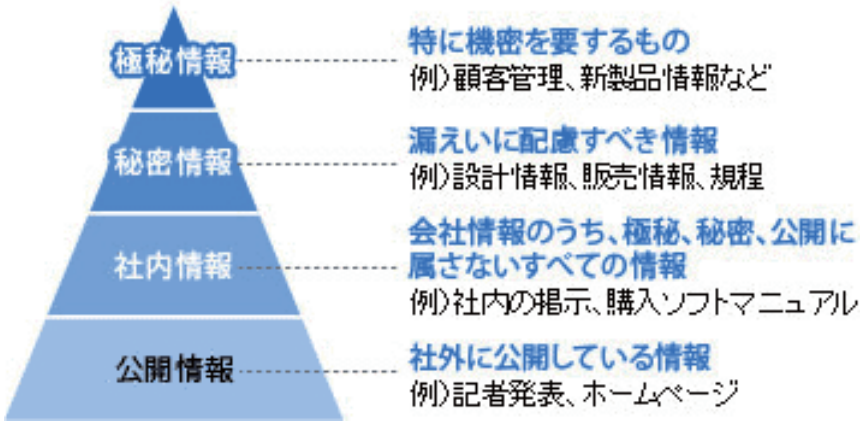
情報管理規程に基づき監査・リスク評価を定期的に実施

ブラザー工業では、情報の適正な管理・保護を、経営品質維持のための基盤と位置付け、「情報管理規程」を定めるとともに、情報管理委員会を設け、情報セキュリティーマネジメントシステム(ISMS)に準拠した活動を実施しています。情報管理規程においては、社内で扱う情報の機密度を、内容に応じて4段階に区分し、情報の保管・アクセス・廃棄などのルールを定めており、各部門の情報管理担当者への情報共有などを徹底することで、ルールの実施を全社的に展開しています。加えて、年2回の内部監査での確認も行っています。

また、情報リスクアセスメント*として、全部門で抽出した情報リスクに対するリスク対応の計画をまとめた「適用宣言書」を情報管理委員会で承認し、リスク対応を推進しています。

*: リスクアセスメント：情報資産に対して、脅威の頻度、脆弱性、影響の大きさなどを基にリスクを評価すること

機密性に応じた四つの情報レベル



アジアの開発・生産拠点における情報リスク対応強化

情報リスクアセスメント活動の実施範囲を拡大

ブラザー工業および国内子会社では、2009年度から業務のプロセスを対象とした情報リスクアセスメントを実施し、業務担当者自身が情報リスクを抽出し、対策を実施する活動を進めています。2011年度は、情報リスクアセスメントの活動をアジアの開発・生産拠点にまで拡大しました。

セキュリティーツールの活用による情報リスクの低減

システム面では、業務のグローバル化に対応するため、PCの操作ログを取得するセキュリティーツールをリニューアルしました。これにより、アジアの開発・生産拠点まで一貫してPC操作状況やデータ通信記録の追跡が可能となりました。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループのCSR課題

2011年度の課題と実績・2012年度の課題

各地域が自律的に取り組みを推進

ブラザーグループは、世界の各地域で多くの事業を展開しています。そのような中でCSR経営を推進するために、各部門や地域は、グループのすべての活動の礎である「ブラザーグループ　グローバル憲章」に基づいて、それぞれの業務の特性、地域の文化・慣習を考慮したCSR経営の課題を抽出し、自律的な取り組みを行っています。

「ブラザーグループ グローバル憲章」に基づいたブラザーグループCSR経営の課題

ステークホルダー	ブラザーグループ グローバル憲章	項目
お客様	・あらゆる場面でお客様第一を考える ・グローバルな市場から求められる多様な要請や期待にすばやく応える ・定められた事業領域内で限られた経営資源を有効活用する ・相互協力のもと、お客様中心の事業一貫経営をグローバルに展開する	お客様第一のマーケティング・商品企画・開発設計(各事業)
		お客様第一の安全・安心な製品設計
		お客様ご迷惑率を低減させる設計品質(各事業)
		お客様ご迷惑率を低減させる製造品質(各事業)
		お客様第一の物流・販売・サービス体制(各事業)
従業員	・従業員の多様性を尊重する ・人格、多様性　の尊重、信義と尊敬	多様な人財の確保
		多様な働き方の支援
	・従業員がさまざまな能力を発揮できる職場環境とチャレンジングな仕事への機会を提供する	各地域での人財育成
		グローバル人財育成
		労働安全衛生
	・従業員の努力と成果に対して、公平な評価と正当な報酬で応える	適切な評価制度
	・従業員に社会の模範となる行動を求める ・従業員に会社との価値観の共有を求める	グローバル憲章の共有
		従業員の「誇り度」向上推進
		最高度の倫理観の醸成
ビジネスパートナー	・常に公平・公正な取引を行う ・信頼関係に基づいて成長しあう	CSR調達の推進
		仕入先との協働
		物流パートナーとの協働
		販売先との協働

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループのCSR課題

2011年度の課題と実績・2012年度の課題

「ブラザーグループ グローバル憲章」に基づいたブラザーグループCSR経営の課題

ステークホルダー	ブラザーグループ グローバル憲章	項目
株主	・積極的な情報公開を行い、株主との間に長期的な信頼関係を築く	IRコミュニケーション
		社会的責任投資株価指数の構成銘柄
地域社会	・地域に対する社会的・経済的・文化的責任を可能な限り分担する	「事業に関連した活動」「地球環境への配慮に関連した活動」「『地域』『人づくり(従業員を含む)』を意識した活動」にテーマを絞った各地域での自律的な社会貢献活動
		グローバルに統一感を持った社会貢献活動
環境	・持続的な発展が可能な社会の構築に向け、企業活動のあらゆる場面で地球環境への配慮に前向きで継続的な取り組みを行う	CO_2排出量削減の推進 (地球温暖化の防止)
		消耗品・製品の回収リサイクル (循環型社会形成)
		化学物質の管理
		環境社会貢献活動の実施 (できる限り生物多様性を意識した活動)
		環境コミュニケーションの実施(「Brother Earth」、イベント、教育、ダイアログなど)
ガバナンス	・活動する国や地域における関連法規、規制を遵守し、文化を尊重する ・最高度の倫理観を持って行動する	グローバルガバナンス体制の構築
		内部統制の推進
		コンプライアンスの推進
		情報セキュリティの推進

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループのCSR課題

2011年度の課題と実績・2012年度の課題

各地域の2011年度のCSR課題と実績・2012年度の課題

<日本>

2011年度の課題	2011年度の実績	2012年度の課題
・マーケティング活動を通じたCSR経営の実践 ・グローバルマーケティング機能の強化 ・お客様満足度の向上とお客様との接点の拡大 ・さらなる品質向上によるお客様満足の向上 ・ブランド認知の向上と、製品に対するサービスの安定供給・質の向上 ・グローバル憲章の共有強化と従業員満足度向上 ・グローバル開発・製造を推進するための人材育成と最適配置 ・グローバルに活躍するプロ人財・チャレンジする次世代人財の創出 ・自己啓発、能力向上など新たな教育プログラムの開発と業務フロー改善 ・ビジネスパートナーとの信頼関係の強化 ・従業員参加型の地域社会貢献活動の推進 ・「Brother Earth」をスローガンとした環境活動の実施 ・環境配慮型設計の推進 ・災害時の物流および部品調達対応の強化 ・各種団体と連携した、あるいは独自の東日本大震災復興支援活動	・通信カラオケやコンテンツサービスの満足度向上 ・グローバルな「トレーニー制度」の活用 ・CSR調達の推進に向けて珠海兄弟が勉強会を開催 ・災害時の部品調達リスクを最小限に ・職業用刺しゅうミシンをご活用いただくためのソリューション活動 ・女性従業員の視点に立った講習会を開催 ・台弟工業が刺しゅうの技術教育を通じて職業訓練に貢献 ・工業用ミシンの「お客様ご迷惑率」低減に向けた取り組み ・ブラザー販売の新経営理念策定の取り組み ・貸出機・展示機のファクスや複合機を非営利団体へ寄贈 ・東日本大震災からの復興に向けたさまざまな支援活動 ・プリンティング機器の使用済消耗品の回収を推進 ・「eco検定推進賞」を受賞 モノクロトナーカートリッジの再生を推進 ・「ブラザーエコポイント活動」をグローバルに展開 ・ブラザーエコポイントやクリック募金を森林の復元・保全に ・貴重な広葉樹林の生育の妨げとなる孟宗竹を地元の方々などと協働で伐採 ・環境展示会「エコプロダクツ2011」出展	・マーケティング活動を通じたCSR経営の実践 ・ブランド認知の向上とサービスの安定供給・質の向上 ・トップブランドにふさわしい品質水準の強化 ・お客様満足度の向上とお客様との接点の拡大 ・グローバル憲章・経営理念の共有の強化と従業員満足度の向上 ・自己啓発、能力向上など教育プログラムの展開と各プロジェクトによる業務フロー改善 ・グローバル戦略を推進・加速する人材確保・早期育成 ・グローバルに活躍するプロ人財・チャレンジする次世代人財の創出 ・人材育成による組織能力の向上 ・部品安定供給に向けたビジネスパートナーとの信頼関係の強化 ・事業に連動した社会貢献活動の実施 ・従業員参加型の地域社会貢献活動の推進 ・「Brother Earth」をスローガンとした環境貢献活動の実施 ・検索機能付リモコンの普及促進による紙媒体の削減 ・環境配慮型設計の推進 ・業界団体と連携、あるいは独自の東日本大震災復興支援活動

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループのCSR課題

2011年度の課題と実績・2012年度の課題

各地域の2011年度のCSR課題と実績・2012年度の課題

<南北アメリカ>

2011年度の課題	2011年度の実績	2012年度の課題
・米州全体でのお客様サービス体制の強化 ・自律型人財育成プログラムの強化 ・従業員参加による社会貢献活動の継続的な実施 ・「Brother Earth」をスローガンとした環境活動の実施	・従業員の地域貢献を後押しする「コミュニティーサービスデー」制度 ・がん患者の子供と家族への支援活動をサポート ・南北アメリカの全拠点で「ブラザーエコポイント活動」を推進 ・アースデーに合わせてイベントを開催 ・森林保護活動にクリック募金を組み入れて活動を強化 ・メキシコ州カリマヤの森林再生	・米州全体でのお客様サービス体制の強化 ・優れた価値をお客様にお届けするための人材育成 ・従業員参加による社会貢献活動の継続 ・「Brother Earth」をスローガンとした環境貢献活動の実施

<欧州>

2011年度の課題	2011年度の実績	2012年度の課題
・マーケティング活動を通じた「Brother Earth」のPR ・会社および個人による、地域社会での環境活動および社会貢献活動の継続的な促進 ・「Brother Earth」をスローガンとし、環境NPO(クールアース)へのスポンサーシップと連携した、消耗品の回収・リサイクルの推進	・欧州で東日本大震災のチャリティー活動を実施 ・「ブラザー環境パートナープログラム」で消耗品回収を促進 ・環境負荷の大幅削減が評価され「クイーンズアワード」を受賞 ・ペルーの熱帯雨林の保全	・Brother Earth / 環境NPO(クールアース)を通じたマーケティング推進 ・Webサイトを通じたお客様との交流 ・CSRに取り組む従業員の支援と、グローバル憲章共有活動の推進 ・ISO14001取得に向けたビジネスパートナーへの働きかけ ・会社および個人による、地域社会での環境活動および社会貢献活動の継続的な促進 ・「Brother Earth」をスローガンとし、環境NPO(クールアース)へのスポンサーシップと連携した、消耗品の回収・リサイクルの推進

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

ブラザーグループのCSR課題

2011年度の課題と実績・2012年度の課題

各地域の2011年度のCSR課題と実績・2012年度の課題

<アジア・オセアニア・中近東>

2011年度の課題	2011年度の実績	2012年度の課題
・ブランド認知度の向上 ・グローバル憲章の更なる浸透を通じた人材育成 ・グループで一体感を持った、従業員参加の社会貢献活動への参加 ・「Brother Earth」をスローガンとした環境活動の実施	・ブラザーグループが一体となり、各地域のチャリティ・リレーに参加 ・マングローブ林の再生支援にお客様やお取引先も参加 ・洪水を防ぐためMarikina川流域の森林再生をスタート ・「エコ戦士」11名が国立公園で植樹活動 ・クリック募金を活用してマンタの生態を調査 ・マナ島に生息する絶滅危惧種の生態系復元プロジェクトを支援 ・使用済みインクカートリッジの共同回収を開始	・ブランド認知度の向上 ・グローバル憲章の更なる浸透を通じた人材育成 ・グループで一体感を持った、従業員参加の社会貢献活動の継続 ・「Brother Earth」をスローガンとした環境貢献活動の実施

<中国>

2011年度の課題	2011年度の実績	2012年度の課題
・ブランドガバナンスの強化 ・自律型人財育成プログラムの実施 ・家庭用ミシンを活用した従業員参加の社会貢献活動の実施 ・「Brother Earth」をスローガンとした環境活動の実施	・コーチング研修により自律型人財の育成を加速 ・従業員による「愛心(思いやり)」プロジェクト ・ブラザーエコポイント活動を活用して緑化活動を推進 ・深圳市の植樹活動に参加 ・国際的な海岸清掃活動に協力	・ブランド認知の向上とアフターサービス体制の拡充 ・自律型人財育成プログラムの継続実施(コーチング研修) ・従業員参加型の社会貢献活動の促進 ・「Brother Earth」をスローガンとした環境貢献活動の実施

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

CSR・ブランド戦略

グローバルにCSRを推進し、信頼のブランドを確立

信頼されるブランドを目指して

ブラザーグループは、ブランドとは、「グローバルに統一感のある、明確なもの」であり、「その時の事業や経営の状況にとらわれない、強く普遍的なもの」であるべきだと考えています。こうした考えに基づいて、

・「ブラザーグループ グローバル憲章」に基づいた意思決定と行動

・環境スローガン「Brother Earth」に基づく地球環境への配慮

を中心に、お客様を第一とするすべてのステークホルダーの要請や期待に応え、「Brother」を「信頼できるブランド」として確立していきます。

「グローバルCSR・ブランド戦略会議」を開催

グローバルでのCSR経営の継続とさらなる進化に向けて

「グローバルCSR」の推進、「信頼のブランド」の確立に向けて、グループの経営層がブラザーのCSR・ブランド活動の進捗を確認し、今後の方向性を共有する場として「グローバルCSR・ブランド戦略会議」を毎年開催しています。

グローバルCSR・ブランド戦略会議

2012年1月25日、東日本大震災後初めての開催となった第4回目の会議では、

・グローバル憲章の共有活動の継続

・「Brother Earth」をスローガンとした環境活動の推進

という2つの軸を中心に、今後とも各地でCSR活動を自律的に展開し、事業活動および従業員の自主的な活動を通じて震災復興支援を継続していくことを確認しました。

また、企業としての責任を明確に定義して行動していくために、グローバル憲章をより具体化した形でのグループ行動規範を、「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則 」として社内外に示すことを決定しました。

ブラザーグループは、今後も、世界中の地域によりますます多様化するご期待やご要望をしっかりと受け止め、想定外のリスクも予測し、自律的に対応していくことで、グローバルでのCSR経営をさらに進めていきます。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

第三者意見

ブラザーグループの2011年度のCSRへの取り組みに対する第三者意見

当意見は、本ブラザーグループのCSRへの取り組みに関するWebサイトの記載内容、および同社のCSR、環境、調達、人事、新事業開発の各担当者へのヒアリングに基づいて執筆しています。

同グループのCSRへの取り組みは、社内外への多言語での発信、グローバル経営を支える人的多様性の拡充など、広範な項目について、国内外でマネジメント・サイクルを適切に進めていると言えます。

高く評価すべき点

IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]
代表者 川北 秀人

- 同社のCSRの基本原則となる「ブラザーグループグローバル憲章」(以下、グローバル憲章)の浸透について、26言語に翻訳され、社長やトップマネジメント層を含む900名以上の管理職が積極的に自ら発信するとともに、中国の販売会社では自発的に「グローバル憲章実践報告会」が開催されるなど、拠点・職場ごとの共有が進められていること。今後は、世界各地の328人の共有リーダーそれぞれの取り組みや工夫が、地域や部門を超えてさらに共有されることを期待します。
- 合わせて、「ブラザーグループ社会的責任に関する基本原則」を、詳細に策定したこと。今後は、グローバル憲章と同様に、世界各地の拠点・職場での共有が進むことを期待します。
- 顧客満足の向上について、「お客様ご迷惑率」という可視化と把握によって、不具合・故障の低減や修理期間の短縮など、さまざまな成果に結び付けていること。
- 人的多様性の向上と活用について、中国のグループ会社において、幹部・管理職人材対象の育成を拡充し、グループとして統一感のある人材育成に向けた目標管理や行動評価を導入するなど、中期的な人材戦略に基づく取り組みが進んでいること。今後は、他の国・地域においても同様の取り組みが進み、グローバルな人材活用・育成の基盤がさらに拡充されることに期待します。

取り組みの進捗を評価しつつ、さらなる努力を求めたい点

- 温室効果ガスの排出量削減について、国内で総量前年比3%減、海外では急激な円高にもかかわらず原単位前年比1.5%増となったことを評価するとともに、今後は取り組みの対象を細分化した定量化をさらに進むことを強く期待します。
- 使いやすさや環境に配慮した製品づくりについて、同年度に発売されたプリンターや複合機の全機種が、欧州やアジアの主要な環境ラベルの認定を取得していることや、一部の機種についてユーザーズガイドなど同梱物を削減したECOモデルを出荷していることを評価するとともに、今後は、ユニバーサル・デザイン・フォントの使用推奨や、トナーセーブや2in1印刷なども標準設定として出荷し、さらに使用時の環境負荷削減効果を使用者が確認できる取り組みが進むことに期待します。
- 生物多様性や水資源への配慮・対応について、世界各地で環境保全活動に協力し、2015年までの中期計画にも明記したことを評価するとともに、今後は、印刷に不可欠な紙、ミシンによる縫製に不可欠な布の素材を供給する生態系のリスクへの理解・共有をさらに進め、保全への取り組みを拡充することを期待します。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ブラザーグループのCSR

第三者意見

ブラザーグループの2011年度のCSRへの取り組みに対する第三者意見

・働き続けやすい職場づくりについて、「仕事と介護の両立支援セミナー」の開催や、国内のグループ会社に勤める子どもを持つ女性従業員のための「Brother Mothers'」活動の充実、労使協約による産休からの復職時に1か月間の「ならし期間」の設定などの取り組みを高く評価するとともに、今後は育児・介護・看護のための休暇・短時間勤務の利用率(ブラザー工業で3.31%)をさらに高められるよう、現場の課題の把握と解消が進むことに期待します。また、メンタルヘルスやBCPへの取り組みとして、従業員の家族に関する不安や困りごとに協力・対応する窓口の設置に期待します。
・サプライヤーへの働きかけとして、環境・人権・労働・安全衛生・公正取引・企業倫理・情報セキュリティー・社会貢献などに関するCSRレベル調査ツールを作成し、中国、マレーシアで勉強会を開催するなど、取引先のCSRへの取り組み状況の可視化や表彰制度を高く評価するとともに、今後はサプライヤー間の交流による課題解決がさらに進むことを期待します。
・社会貢献活動について、従業員の日常的な環境負荷削減への取り組みによる「ブラザーエコポイント活動」に、世界の全従業員数の約3割にあたる8800人以上が参加していることや、ミシンを活用したエコバッグづくりなど自社の資源を生かした活動を高く評価するとともに、今後も世界共通の基本方針のもとで、社会への投資として戦略的に推進されることを引き続き期待します。

グローバル企業として、取り組みの進展が期待される点

・多様なステークホルダーとのコミュニケーションについて、社長や役員などトップマネジメント層による従業員向けの発信が多数かつ多言語で行われていることを高く評価するとともに、今後は、NGOなど社外のステークホルダーとの対話の機会を、特に欧州において積極的に設け、次に取り組むべき社会的課題について学び、協働して取り組むきっかけに結び付けることを強く期待します。

IIHOE	「地球上のすべての生命にとって、民主的で調和的な発展のために」を目的に1994年されたNPO。主な活動は市民団体・社会事業家のマネジメント支援だが、大手企業のCSR支援も多く手がける。 ▶http://blog.canpan.info/iihoe/ http://blog.canpan.info/iihoe/(「IIHOE」の関連サイトへリンクします。)

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

お客様とともに

ブラザーグループは、あらゆる場面でお客様を第一に考え、
モノ創りを通して優れた価値を創造し、迅速に提供します。
そしてお客様との間に長期的な信頼関係と
ロイヤルティーを築きます。

お客様第一の製品開発

・お客様の声を的確にタイムリーに反映する仕組み
・薄型プリンター「マイミーオ」を大幅に高速・多機能化

お客様ご迷惑率の低減

・お客様視点に基づく「お客様ご迷惑率」という考え方
・工業用ミシンの「お客様ご迷惑率」低減に向けた取り組み

安全・安心な製品設計

・お客様視点を製品の隅々にまで反映する「顧客品質基準」の考え方
・あらゆる製品事故を限りなくゼロに近づけるために

物流・販売・サービス体制

・通信カラオケやコンテンツサービスの満足度向上
・職業用刺しゅうミシン最大限にご活用いただくために

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

お客様とともに

お客様第一の製品開発

お客様の声を的確にタイムリーに反映する仕組み

多面的な調査によって「潜在的なご要望」まで描き出し、製品に具現化します

ブラザーグループは、お客様の声をすべての事業活動の原点と考え、さまざまな場面でご意見やご要望をお聞きし、データベース化しています。

特に新製品の企画段階では、企画開発スタッフがお客様への訪問、グループインタビュー、ウェブサイトでのアンケートなどを通じて、製品の使用環境やご感想・ご要望などを幅広く深く調査し、お客様ご自身も意識されていない「潜在的なニーズ」を顕在化させて次の製品開発に反映します。

こうして、お客様のニーズにジャストフィットする機能・サイズ・デザイン・価格として具現化し、お客様に新たな価値とご満足をご提供できるよう努めています。

お客様の声を製品開発に反映する仕組み

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

お客様とともに

お客様第一の製品開発

薄型プリンター「マイミーオ」を大幅に高速・多機能化

時代が求める多彩な機能をコンパクトなボディに凝縮

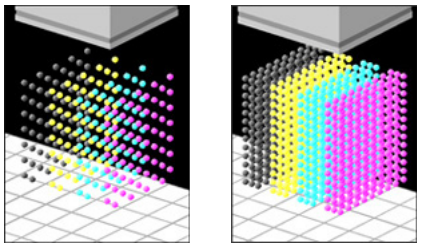
サイズは小さく、印刷スピードはより速く、そして楽しみ方を広げる機能は多彩に、しかも購入しやすい価格で―プリンターに対するお客様のご要望は、ますます高度化・多様化しています。こうしたご期待にお応えして、薄型インクジェットプリンター「マイミーオ」を2011年9月に日本国内向けに発売しました。

開発チームは、まず基本性能の向上に着手し、ビジネス機器向けに開発した新エンジン*1技術を投入。ノズルを2倍に高密度化した新プリントヘッドを搭載するとともに、1枚目の排紙と同時に次ページの給紙を開始する連続給紙機構を採用し、A4普通紙プリントを従来機種に比べて3倍以上もスピードアップさせました。

また、上位モデルには、年賀状印刷や用紙節約に最適な自動両面プリント機能やCD/DVD/BDなどのレーベル面に直接プリントできる機能も搭載しました。特にレーベルプリントは、市場調査の中でお客様が求める機能の上位にありましたが、それまで高級モデルでの搭載に限られていました。そこで、開発チームは「本体サイズは従来機種と同等」という制約の中で、1ミリの高さや数ミリの隙間を最大限に活用して独自の機構を考案し、その搭載を可能にしたのです。

*1: エンジンとは、ブラザーにおいては特定の機能を果たすための処理装置(プログラムやハードウェア)。

大幅な高速化・多機能化を実現した新型「マイミーオ」


従来ヘッド　　新型ヘッド
高速エンジンにより格段に印刷速度が向上

挑戦はさらに続きました。それは「マイミーオ」にクラウド*2との接続機能を持たせ、モバイルと連動した写真の楽しみ方を広げたり、利用者が急増しているウェブサービス*3まで取り込もうという意欲的なものでした。たとえば、スマートフォンで写真を撮影し、クラウドにデータを転送・保管しておけば、友人と画像を共有でき、パソコンを使うことなく「マイミーオ」で同じ写真をプリントできます。

これを実現するには、複数のウェブサービス会社との契約やインターフェイス(情報を仲介するための規格)対応が必要でしたが、複数の社内部署が一致協力して短期間でこの課題を乗り越えました。

こうして誕生した新型「マイミーオ」は、時代のニーズを先取りした新世代のプリンターとして、お客様をはじめ多方面から高い評価を受け、“プリンター選びの第三の選択肢”として、ブラザーブランドの存在感を示すことができました。

*2: クラウド・コンピューティング・サービスの略。従来、手元のコンピューターで管理・利用していたソフトウェアやデータを大規模なデータセンターで保管し、利用者が必要に応じてインターネットを使ってソフトやデータを利用する方式。
*3: コミュニティ型ウェブサイトやソーシャル・ネットワークが提供するさまざまなサービス。

コンパクトなボディの中でレーベルプリント(上)と両面印刷(下)機能を搭載

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

お客様とともに

お客様ご迷惑率の低減

お客様視点に基づく「お客様ご迷惑率」という考え方

製品出荷後の不具合発生を限りなくゼロに近づけること

ブラザーグループでは、お客様から返品または修理のために戻ってくる製品の割合を「お客様ご迷惑率」と定義しています。これは、どんな小さな不具合でも、その修理のためにお客様にご負担いただかねばならない時間や手間は、お客様にとって「ご迷惑以外の何ものでもない」という考えによるものです。そのため、不具合発生を限りなくゼロに近づけることこそ、お客様満足向上への最優先課題と捉え、開発設計・製造・物流・販売・サービスなど各部門が一体となった品質向上活動を続けています。

工業用ミシンの「お客様ご迷惑率」低減に向けた取り組み

M&Sカンパニーがグローバルサービス会議を開催

工業用ミシンや工作機械などを事業展開するブラザー工業のマシナリー・アンド・ソリューション　カンパニー(以下、M&Sカンパニー)では、修理目的でお客様を訪問した回数から算出した「お客様ご迷惑率」のデータを各国から毎月収集し、発生傾向を分析して迅速な対応をしています。同時に、不具合の要因や改善策などをブラザー工業、海外販売拠点および生産拠点が共有し、「サービスの見える化と問題の顕在化」を図ることで低減活動に結びつけています。

BMXで開催したグローバルサービス会議

2011年度は、工業用ミシンの主要市場である中国・ベトナム・インド・バングラデシュにおいて、主要8モデルの「お客様ご迷惑率＝0.83」を目標に活動を進めました。しかし一部のモデルで、予想外の使用環境での部品破損問題が発生し、目標達成に対し苦戦を強いられました。12月に生産拠点の兄弟機械(西安)有限公司(以下、BMX)で開催した「グローバルサービス会議」では、この問題を主要議題として各国サービス部門の代表者が話し合い、交換部品の迅速な補給体制や本社からの支援活動の強化などを検討しました。

M&Sカンパニーでは、今回の事例を教訓に各部門で改善策を実施し、今後も不具合発生を限りなくゼロに近づけるとともに、お客様満足向上に向けた取り組みを推進していきます。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

お客様とともに

安全・安心な製品設計

お客様視点を製品の隅々にまで反映する「顧客品質基準」の考え方

安全に使い続けていただける製品設計に向けて

世界中の国や地域でご利用いただいているブラザー製品は、その設置環境や使用方法がたいへん多様になっています。品質保証担当部門では、市場で起きた様々な問題に関わる情報をデータベース化し、得られた情報から製品の品質基準と評価方法を作成しています。さらに、想定される問題を未然に防止するため、その対策を設計段階から織り込み、お客様に安心してお使いいただける製品づくりをしています。これが「顧客品質基準」であり、ブラザーグループのモットーである“At your side.”の精神を製品開発に反映したものです。

「顧客品質基準」は固定されたものではなく、修理依頼の情報やコールセンターに寄せられる情報などを精査して常に見直しを図っています。

あらゆる製品事故を限りなくゼロに近づけるために

安全性への認識をさらに深め、再発防止から未然防止へ

製品事故は、お客様の生命・財産に損害を及ぼすだけでなく、場合によっては企業存続をも危うくします。ブラザーグループは「製品の安全は品質保証の原点であり、お客様に安全な製品をお届けすることを、何よりも優先する。」という製品安全理念に基づき、安全性の向上に努めています。

製品の開発段階では、お客様の誤使用や不注意があっても安全に動作するよう、また故障時でも事故に至らないよう、製品がその役目を終えるまで安全が確保できることを「製品安全リスクアセスメント」などで評価・検証しています。

具体的には、過去の事例、お客様からの発熱などのご指摘、修理で発見した部品焼損などの内部異常など、世界中の拠点から集まる情報をデータベース化し、原因を徹底的に解析して、発火などの重大事故に拡大する可能性がないか、設計や取扱説明書などに改善の余地はないかを、詳しく検討してきました。

2011年度は、安全性向上活動の一環として、開発部門で、再発防止に加え、より未然防止につながる活動にも力を入れました。さらに、これまで開発部門にとどまっていた製品安全教育を生産拠点や販売拠点にも拡大し、情報共有や知識の浸透を図りました。

その結果、2011年度における自社製品が原因の重大事故は全世界でゼロを達成しました。また、製品出荷台数・情報収集範囲の拡大に伴い、増加傾向にあった部品焼損などの発生件数も、ピークであった2008年度に比べ半減しました。

実物の製品を分解して安全性の視点から構造や部品への理解を深める生産拠点のスタッフ

ブラザー工業の従業員が講師となって行った製品の安全性教育
(写真2点とも兄弟工業(深圳)にて)

ブラザーグループでは、今後も製品安全基準の継続的な見直しや教育活動を拡充し、より安全・安心な商品をお届けします。

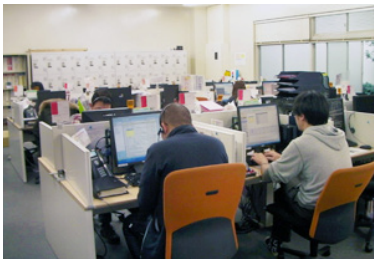
ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

お客様とともに

物流・販売・サービス体制

通信カラオケやコンテンツサービスの満足度向上

ヘルプデスクの対応力を強化して受付率を大幅に改善


技術サポートとともにお客様の声を関係部署に発信する役割も担うヘルプデスク

通信カラオケやコンテンツサービスなどを展開する株式会社エクシングでは、「JOYSOUND」と「UGA」のカラオケブランドが統合してから2011年7月に1年を迎えました。エクシングはこれを機に、更なるお客様満足度の向上に向け、2011年度後半、コールセンター機能の充実を図ってきました。特に、製品・機器に関する技術的サポートを行う「ヘルプデスク」では、業務の効率化・スピード化に注力するとともに、貴重なお客様の声を製品やサービス向上に反映する「VOC(Voice Of Customer)活動」における情報発信基地としての機能強化にも努めました。

具体的には、お客様のご意見・ご要望の多い項目を迅速に分類・分析して関係部署に情報展開する新システムの導入や、分析した情報をオペレーション業務の改善や新機種の開発・導入などに結びつける取り組みが挙げられます。その成果として、ヘルプデスク全体の効率化が加速し、お客様からのお電話のつながりやすさを示す受付率が大幅に改善され、2011年度は毎月80%以上を維持しています。

エクシングでは、今後もお客様のニーズをサービスや製品のレベルアップに迅速に反映させ、さらなる満足度の向上に努めてまいります。

職業用刺しゅうミシン最大限にご活用いただくために

P&Hカンパニーのソリューション活動

職業用刺しゅうミシンの最新モデルPR1000e(海外向け)

いま世界各地で、高性能の刺しゅうミシンを導入して、店頭で迅速にすそ上げや名入れサービスを提供したり、あらたに刺しゅうビジネスを起業したりする人々が多数います。ブラザー工業のパーソナル・アンド・ホームカンパニー(以下、P&Hカンパニー)では、こうしたニーズにお応えし、工業用ミシンで培った高度な技術と家庭用ミシンの使いやすさを1台に集約した職業用刺しゅうミシンを開発。お客様にこの製品を最大限に使いこなしていただくための講習会や、刺しゅうビジネスを始める方に向けたセミナーなども積極的に開催しています。

また、ディーラー向けに他社製品との相違点や販売する際にアピールしてもらいたい機能、潜在顧客の見つけ方などを直接説明する活動を世界各国で展開しています。

ディーラーを対象にした新製品説明会

2011年度は、アメリカ・ヨーロッパ・アジア・東欧・ロシア・中南米諸国などで、お客様・ディーラーなどに向けて、職業用刺しゅうミシンの最上位機種PR-1000eの講習会やセミナーを開催して大きな反響をいただきました。一方、日本ではお客様のご要望を随所に取り入れた新型モデルPR-650e(日本向け)を2011年9月に発売し、刺しゅうの品質・スピード・名入れ刺しゅう機能などがスポーツメーカーやビジネススーツのチェーン店から高い評価をいただきました。

P&Hカンパニーでは、今後も刺しゅうビジネス市場の拡大に貢献する、きめ細かなソリューション活動に力を注ぎ、いっそうのお客様満足度向上とコミュニケーション強化を図ってまいります。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

ブラザーグループは、従業員の多様性を重視し、さまざまな能力を発揮できる職場環境とチャレンジングな仕事への機会を提供します。
そして努力と成果に対して、公正な評価と正当な報酬で応えます。

多様な人財の確保

・雇用・処遇に関する基本方針
・多様な人財を確保するために

多様な働き方の支援

・多様な働き方を支援するために
・地域のボランティア活動への参加を支援【アメリカ】
・仕事と子育ての両立に向けて

各地域での人財育成

・特色を生かした人財育成
・コーチング研修により自律型人財の育成を加速【中国】

グローバル人財育成

・グローバルな人財育成に向けて
・グローバルな「トレーニー制度」の活用
・グローバル採用「第三期生」が入社

労働安全衛生

・グローバルな安全・防災の仕組みづくり
・より安全・安心で働きやすい職場環境づくり
・心身の健康維持・増進

グローバル憲章の共有

・すべての活動の礎に----「ブラザーグループグローバル憲章」の浸透
・ブラザー販売の新経営理念策定の取り組み

従業員の「誇り度」向上推進

・「ブラザーらしさ」を継承していくために
・働きがいのある会社ランキング、17位にランクイン

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

多様な人財の確保

雇用・処遇に関する基本方針

多様な人財が能力を発揮できる制度・環境を整備

ブラザーグループは、世界44の国と地域に設置した17の生産拠点と52の販売拠点で事業を展開しています(2012年4月現在)。人種・言語・文化・習慣など、事業を取り巻く環境がさまざまに異なる中で、全従業員がグローバルチームブラザーの一員として、日々活躍しています。

その基盤となるのが「ブラザーグループ　グローバル憲章」(以下グローバル憲章)の「基本方針」に掲げた「従業員の多様性を重視し、さまざまな能力を発揮できる職場環境とチャレンジングな仕事への機会を提供する。そして、努力と成果に対しては、公正な評価と正当な報酬で応える」という考え方です。また、「グローバル憲章」の行動規範では「常に一人ひとりの人格、多様性を尊重し、信義と尊敬を持って行動する」ことを定めています。

ブラザーグループ各社では、これらの考え方に基づいて、採用・評価・昇進などにおいて、民族・国籍・宗教・思想・性差・学歴・年齢・障がいの有無など、あらゆる差別を排除することを目指し、また、児童労働や強制労働を禁止しています。今後も経営層と従業員が一体となって、関連法規、規則の順守はもちろん、各自の文化や慣習を尊重し、「グローバル憲章」に基づいた人事制度の進化、職場環境の継続的な改善に取り組んでいきます。

公正な評価と処遇を目指した 目標管理制度

ブラザーグループでは、意欲・能力・成果を公平・公正に評価して処遇に反映するための体制を構築しています。例えばブラザー工業では、一般従業員については、明確な評価基準に基づく目標管理制度のもと、納得性の高い評価を実施しています。評価の結果は被評価者に公開し、その後の面談においてその評価理由を伝えています。こうすることで、従業員が自らの仕事を振り返り、新たな目標に向かって成長していくためのモチベーションも高まるため、人財育成にもつながっています。なお、管理職に関しては、年俸制を採用しています。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

多様な人財の確保

多様な人財を確保するために

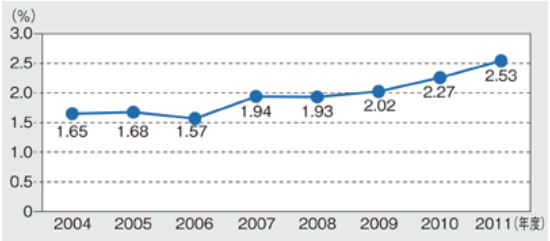
女性管理職の登用を推進

女性管理職については、各国・各地域で、女性の社会進出の歴史、生活文化、主な職種などが異なるため、全管理職者数に対する比率に差はあるものの、2011年度(2012年3月31日時点)は、中国(深圳)のグループ会社やブラザー工業などで管理職として活躍する女性が増加しました。

ブラザーグループの女性管理職者数と比率

社名[国]	2011年3月		2012年3月	
	数	比率	数	比率
ブラザー工業[日本]	18名	2.3%	20名	2.5%
ブラザー販売[日本]	0名	0.0%	1名	1.5%
兄弟高科技(深圳)[中国]	17名	27.4%	19名	27.1%
兄弟工業(深圳)[中国]	7名	28.0%	10名	33.3%
珠海兄弟工業[中国]	9名	52.9%	9名	52.9%
兄弟機械(西安)[中国]	4名	17.4%	4名	14.8%
ブラザーインダストリーズテクノロジー(マレーシア)[マレーシア]	6名	24.0%	9名	29.0%
ブラザーインターナショナルコーポレーション(U.S.A.)[アメリカ]	53名	34.4%	57名	34.5%
ブラザーインターナショナル(ヨーロッパ)[イギリス]	7名	16.7%	8名	19.5%
ブラザーU.K.[イギリス]	14名	45.0%	17名	47.2%
兄弟(中国)商業[中国]	7名	31.8%	8名	29.6%
ブラザーインターナショナル(ドイツ)[ドイツ]	1名	7.1%	1名	6.7%
ブラザーフランス[フランス]	9名	36.0%	13名	44.8%
ブラザーインダストリーズ(ベトナム)[ベトナム]	9名	20.4%	13名	22.4%

女性管理職比率の推移(ブラザー工業)



ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

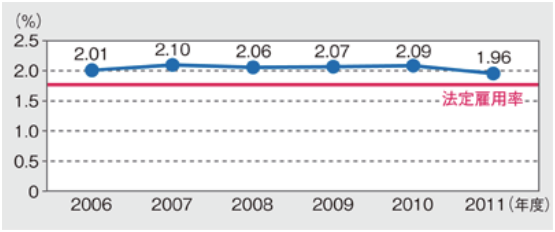
多様な人財の確保

多様な人財を確保するために

障がい者の雇用推進と活躍支援

ドイツ・フランス・日本では、一定の障がい者雇用率を企業に義務付け、例えば日本では一定規模以上の企業に総従業員数の1.8%以上の障がい者雇用が法律で定められています。ブラザーグループでは、各国・地域の状況に応じて障がい者の雇用を推進し、2011年度におけるブラザー工業の障がい者雇用率は、法定雇用率を上回る1.96%となっており、それぞれの障がいを持つ従業員が適性・能力に合った職種で活躍しています。

障がい者雇用率の推移(ブラザー工業)



ブラザー工業では、「ブラザーグループ　グローバル憲章」の「行動規範」にある「個人に対する信義と尊敬」にのっとり、障がいの有無に関わらず、従業員同士が理解を深め、連携を強化して個々の能力を最大限に発揮できる職場環境をつくっていく方針を引き続き展開しております。特に2009年度から実施しているジョブコーチ支援に関しては、ブラザーグループのグループ子会社である株式会社ビートップスタッフと協同して、障がいを持つ従業員が円滑に就労できるよう客観的な立場で助言・指導といった支援を進めております。具体的には、各職場での就労状況を見て作業方法の見直しを提案したり、障がい特性に合わせた効果的なコミュニケーションについての勉強会を実施したり、外部の専門機関と連携して、その職場と本人特性に合わせた対応を実施しております。

2011年度は、社内に40名ほどいる「障害者職業生活相談員」を再配置し、イントラネット上での公開はもちろん、障がい者雇用に関する知識のブラッシュアップや具体的な事例を学ぶ講習会などを実施しており、各拠点や職場でのナチュラルサポートの形成に取り組んでおります。

今後も、障がいを持つ従業員が貴重な戦力として活躍できるような職場環境づくりはもちろん、障がいの有無に関わらず、より働きがいのある会社になるよう取り組んでまいります。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

多様な働き方の支援

多様な働き方を支援するために

各自のライフスタイル選択を支援する制度を制定

ブラザーグループでは、従業員が多様なライフスタイルを選択できるよう、各国・各地域の法律、労働環境、従業員の状況を踏まえ、勤務体系に柔軟性を持たせるなど、個人の事情に合わせた働き方を可能な限り支援しています。

例えば、少子高齢化が問題となっている日本では、育児や介護を支援する企業内制度の充実など、家庭と仕事の両立を可能にする施策が求められています。そこで、ブラザー工業では、育児・介護休職制度や短時間勤務制度など、育児・介護と仕事の両立を可能にする制度の整備を進めてきました。

仕事と介護の両立支援に関するセミナー

2010年9月1日より社員のニーズを反映して、「育児休職」期間を1才6ヵ月、もしくは1才を超えた最初の3月31日の翌月末までに改定しました。これは保育園に行き始めの頃は子どもも親も不安なので、慣れるまでの期間として1ヶ月の延長を可能にしたという背景の下に改定しております。また、2012年4月1日より、育児休職からフルタイム勤務への段階的な復帰を支援するために、短時間勤務制度を改訂し、所定時間が2つの種別に選択できるようになりました。

育児休職制度の利用開始者は、2010年度は45名(男性10名)が、2011年度は30名(男性5名)となり、2007年度から2011年度までの育児休職取得者の職場復帰率は100%となっています。さらに、介護休職については、一事例につき通算3年(短時間勤務と合わせて6年)取得できる制度となっていることに加えて、2011年度は外部講師を招き、管理職を対象にした介護セミナーを実施するなど、両立支援ができるような環境整備を進めております。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

多様な働き方の支援

地域のボランティア活動に参加を支援【アメリカ】

従業員の地域貢献を後押しする「コミュニティーサービスデー」制度

ブラザーインターナショナルコーポレーション(U.S.A)(以下、BIC(USA))では、地域社会でのボランティア活動(プロジェクトやイベントへの無償参加など)を年間で8時間以上行った社員に、1日の有給休暇を与える「コミュニティーサービスデー」制度を設けています。これは1990年に「地域に密着した企業となるべく、地元に貢献するボランティア活動への参加を評価する制度の創設を」という従業員の発案を受けて始まりました。以来、この制度はブラザーが持つ“グローバルチーム・ブラザー”の精神を社会に展開する仕組みのひとつとして活用されています。

寄付された衣類やおもちゃの仕分けを行うBIC(USA)の従業員と家族

特に2011年のクリスマスシーズンには、例年以上に多くの従業員が地域貢献活動に取り組みました。主なものだけでも次のように多岐にわたっています。

・経済的に恵まれない人々のためにコート・ジャケット・おもちゃなどを提供する活動(慈善団体が主催)に9人の従業員およびその家族が参加し、衣料の寄付や仕分け業務などを実施
・チャリティー団体に協力し、子どもたちがクリスマスツリーに貼った願いをかなえるための29のプレゼントを手配し、慈善団体へ配送
・子どもたちに放課後の課外授業の機会を提供している団体に協力し、学用品を届け、子どもたちを激励
・缶詰などの食品を職場で募り、地元のフードバンクに寄付
・献血バンクの要請に応え、テネシー州の特別献血活動に数十人の従業員が協力

このほかにも、歩いた距離に応じて寄付する「ウォーカーソン」への参加、動物保護施設でのボランティア、子どもたちの指導・コーチなど、BIC(USA)の従業員たちは「コミュニティーサービスデー」制度を積極的に活用し、機会を見つけて地元への貢献活動に参加しています。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

多様な働き方の支援

仕事と子育ての両立に向けて

認定事業主マーク「くるみん」を取得

ブラザー工業は「次世代育成支援対策推進法」*に基づいた従業員の子育て支援のための取り組みを実施してきました。その結果、2011年6月に「基準適合一般事業主認定」を受け、厚生労働大臣による認定事業主マーク「くるみん」を取得することができました。

これは、ブラザー工業が策定した「一般事業主行動計画」第2期(2008年度～2010年度)に沿って実施した
・父親の育児休職体験談のイントラネット内での発信
・管理職へのタイムマネジメント教育の実施
・年次有給休暇の取得促進の取り組み
などの成果が認められたことによるものです。

基準適合認定された企業が利用できる“くるみん”マーク

今後もブラザー工業は、第3期(2011年度・2012年度)の「一般事業行動計画」を推進するなど、積極的に仕事と育児を両立するために必要な様々な支援策を展開し、社員にとってより働きやすい企業を目指してまいります。

この他、2011年度は名古屋市女性の活躍推進企業認定、従業員表彰、子育て支援企業認定・表彰制度において優秀賞受賞など、外部の機関から子育て支援や、女性従業員活躍推進の取り組みが認められております。

「一般事業主行動計画」(第3期)概要

・従業員が育児休職を取得しやすく、本人にとっても職場にとっても、職場復帰しやすい環境の整備を実施する
・年次有給休暇の取得の促進のための措置の実施
・従業員の多様性を重視し、仕事と育児・介護等を両立させながら、さまざまな能力を発揮できるよう会社として積極的にサポートする

*:「次世代育成支援対策推進法」:
次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成される環境の整備を行う「次世代育成支援対策」を進めるため、301人以上の労働者を雇用する事業主は、「一般事業主行動計画」を策定し、届け出ることが義務付けられています。

▶ **厚生労働省ホームページ** (「厚生労働省ホームページ」のサイトへリンクします。)
http://www.mhlw.go.jp/general/seido/koyou/jisedai/index.html

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

各地域での人財育成

特色を生かした人財育成

さまざまな能力の発揮と多様性、チャレンジを重視した人財育成

ブラザーでは、「ブラザーグループ グローバル憲章」の「従業員」の項目にも示されているように
(1) 従業員の持つ多様性の尊重
(2) 従業員による、さまざまな能力の発揮
(3) チャレンジングな仕事の提供
を重視しています。そして各国、各地域、各事業に則した人財育成と関連制度の充実を図ることが、従業員の長期にわたる才能・スキルの発揮に結びつくと考え、育成環境の整備とさまざまな制度の構築を進めています。

コーチング研修により自律型人財の育成を加速【中国】

さまざまな能力の発揮と多様性、チャレンジを重視した人財育成

中国の販売会社、兄弟(中国)商業有限公司(以下、BCN)では、自律型人財育成プログラムの一環として、2010年11月から約1年をかけての大規模なコーチング研修を実施してきました。これは、ブラザーグループの中期戦略「CS　B2015」(2015年度目標：売上高7,500億円、営業利益580億円)を達成するために、BCNとしてはリーダーシップを持って主体的に行動できる自律型人財の早期育成が急務であり、その推進策としてコーチングが有効と考えたからです。

コーチングは、アメリカで考案された人財開発の手法で、統一されたプログラムによって画一的に教育するのではなく、個人のモチベーションを重視しながら個々の能力を可能な限り引き出し、自発的に考える力や解決する力を高めていくことに特徴があります。

BCNでは、コンサルタント会社の指導のもと、管理職の基礎研修を皮切りに、管理職の直属の部下となる主管職、さらには経営層である総経理・副総経理に至るまで、階層ごとに基礎・応用研修を展開。研修後は多くの管理職に行動変化が見られ、主管職からは「職場の後輩にコーチングを実施したい」との感想が数多く寄せられました。この成果をもとに、今後は身に付けたコーチングスキルを業務の中で存分に発揮し、職場のチーム力、ひいては会社全体の業績向上に結びつけていく方針です。

コーチング集合研修(上：管理職、下：主管職)

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

グローバル人財育成

グローバルな人財育成に向けて

事業発展の鍵は、国内外従業員の人財育成と人財交流

グローバル化が進む中、ブラザーグループはグローバルでの人財育成と交流が事業発展の鍵を握ると考え、ブラザーのDNA継承やマネジメント能力の向上を目的とした研修、グローバルな人的交流の促進などに取り組んでいます。

取り組みの一環としてこれまでに、マネジメントを任せられる中国現地従業員を育成するための研修の日本および中国での開催、日本の若手従業員を対象とするトレーニー(訓練生)の海外派遣など、早期に複数の国で経験を積む制度を実施しています。

今後も、各国・各地域の人財育成のための計画やニーズなどの情報を、独自の人事情報システムを活用してグループ全体で共有し、グローバルに計画的・長期的な人財育成を進めていきます。

グローバルな「トレーニー制度」の活用

導入3年、制度利用者が増加し続けるトレーニー制度

トレーニー制度は、ブラザーグループの真のグローバル化の実現のために、グループのグローバル経営を担う、広い視野と高い専門性を持った人財を育成するための制度です。

この制度は、ブラザー工業とグループ会社間での相互派遣(3ヶ月～2年間)による実務経験及び研修を通じ、
・将来の業務に関連した幅広い知識・技術・人脈を得ること
・国を跨いで研修することでグローバルな対応力習得を目指すこと
を目的としており、特に若手社員の派遣に注力しています。

研修中に訪問した、販売代理店のブラザーコーナー

2008年度に開始されて以来、制度の運用者は増加し続けており、グローバルなリーダーの早期育成に寄与しています。2011年度12月時点で、日本から海外各拠点に8名の派遣、国外から日本へ23名の受入れを図りました。

ブラザーグループでは、真のグローバル化に向け、今後さらにトレーニー制度を強化・拡充を図りながら、グローバル人財の育成を促進していきます。

トレーニーから
上海販売拠点で多くを学ぶ

ブラザー工業　営業企画部
大谷　和久

実際に販売代理店とコミュニケーションを取ることで、ビジネスパートナーとの関係強化の大切さを実感しました。
また現地で中国語を使うことで、ビジネス中国語の勘所も学びました

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

グローバル人財育成

グローバル採用「第三期生」が入社

海外の新卒大学生がブラザーグループの仲間に

2011年10月、今回で3期目となる、中国などの大学・大学院卒業者を対象とする「グローバル採用」の新入社員として、9名がブラザー工業に入社しました。(1期目：8名、2期生：10名)

ブラザーグループは、多くの従業員が国籍を問わず世界中で活躍する「真のグローバル化」を目指しています。その一環として、開発・生産拠点においてモノ創りのキーパーソンとなる、現地出身の人財を育成するための「グローバル人財の採用・育成」に力を注いでいます。

中国などの大学を卒業して研修中の新入社員

グローバル採用の第三期生として入社した彼らの多くは、内定後から日本語の学習をスタートしています。7月からの2ヵ月間、中国・大連で日本語集合研修に参加し、ビジネスレベルを目指して、日本語を学んできました。そして、10月3日の入社式で、社長の小池や人事部長から祝辞と激励のメッセージを受け、ブラザーグループの一員としてのスタートを切りました。

彼らは日本の文化・慣習に触れると共に、入社基礎研修を通じてブラザーグループ従業員として必要な知識を学び、2012年2月から4月にかけて、開発部門を中心に各部署に配属されました。

ブラザーグループでは、グローバル採用の実績を重ねる過程で、研修体系・生活サポート・異文化交流などのノウハウをさらにレベルアップし、グローバル人財の育成プログラムを強化・充実していく方針です。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

労働安全衛生

グローバルな安全・防災の仕組みづくり

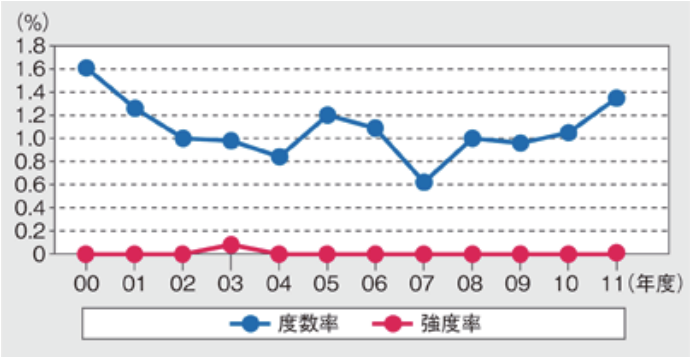
安全第一を基本方針としてマネジメントシステムを構築

ブラザーグループでは、「『安全第一』は、すべての活動の基本である。すべての従業員が安全に安心して健康に働ける快適職場となるように努めると共に、安全文化を定着させる」という「基本方針」を、「安全防災方針」で定め、ブラザー工業の中央安全防災委員会を中心に工場や職場における業務上の災害・疾病の撲滅や快適職場づくりに取り組んでいます。

2005年度からは労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)の導入を開始し、ブラザー工業の星崎工場が2012年4月に2度めの更新審査を受けました。引き続き適格認定基準に沿った活動を国内の生産拠点やグループ会社に展開しています。

グローバル安全防災大会

労働災害度数率・強度率推移(ブラザー工業)



度数率 ＝ (業務上労働災害による死傷者数 / 延実労働時間数)×100万
強度率 ＝ (業務上労働災害による延労働損失日数 / 延実労働時間数)×1000

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

労働安全衛生

グローバルな安全・防災の仕組みづくり

海外の生産拠点における安全衛生・防災活動の自立

中央安全防災委員会事務局であるブラザー工業人事部安全防災グループが、各生産拠点の安全衛生・防災担当者とともに活動のPDCAを進め、自立化を推進してきました。

安全衛生面では、各工場における活動の基本となる「安全防災方針」の制定・周知、PDCAの基となる活動計画の作成のほか、安全衛生パトロール、災害発生時の再発防止対応、職場の潜在的リスクを計画的に低減する「リスクアセスメント活動」、KY(危険予知)活動や安全ルール集の配布などを実施してきました。ただ、これまで減少傾向にあった労働災害ですが、従業員数の拡大などに伴い災害件数が増加した工場もあり、2011年度は前年比で5件増となる30件の労働災害が発生しましたので、より一層、安全で安心して働くことができる職場をめざして、継続的かつ積極的に安全活動を推進していきます。

KY(危険予知)活動

消火訓練

防災面では、防災組織の整備、防災訓練(避難訓練)や消火器・消火栓による消火訓練の指導、心臓マッサージや人工呼吸などの救命講習、防火設備点検などを実施し、災害発生時への対応をまとめた「ブラザー海外工場防災指導マニュアル」の周知を進めました。また、火災等の災害発生の防止および万が一災害が発生した場合の被害を最小限にとどめるための体制作りや訓練を実施しました。

2011年度からは、PDCAの中でもC(check：評価)とA(act：改善)の実施に重点をおき、自主監査によって各工場で年間の安全・防災活動の評価を行い、その結果を基に次年度の活動計画を作成し、改善に結びつけることで安全衛生・防災水準の向上を図りました。

また、海外生産拠点の安全衛生関係者を集めて開催している「グローバル安全防災大会」が4回目をむかえ、災害発生の少ない工場、あるいは安全活動が優秀な工場の表彰や各工場からの活動事例の報告、安全衛生講習を実施し有意義な大会となっています。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

労働安全衛生

より安全・安心で働きやすい職場環境づくり

女性従業員の視点に立った講習会を開催

家庭用ミシンやラベルライターなどを生産している珠海兄弟工業有限公司(以下、珠海兄弟)の従業員は約2,500名で、そのうち95%が女性です。そのため珠海兄弟では、女性が安全に安心して働ける職場環境づくりをCSRの重点課題に掲げ、女性の視点に立ったさまざまな活動の推進に力を注いでいます。

2011年12月には、新たに「妊婦への保健知識講習会」を開催しました。これは妊娠中やこれから出産を計画している従業員に、産前・産後の衛生・栄養、出産法・授乳法などについて正しい知識を習得してもらうことを目的としています。

「妊婦への保健知識講習会」で熱心に聴き入る従業員

講習会には37名の従業員が参加し、専門医から「産前の定期検査、妊娠中の栄養摂取、出産・授乳方法の選択」などの講義を受け、その重要性について理解を深めました。講習会は2012年3月に2回目を開催し、12年度以降も継続的に開催する計画です。

心身の健康維持・増進

グループ全体の健康維持・増進を目指して

従業員の健康管理は、活力ある組織づくりにおいて重要なテーマです。ブラザーグループでは、各国、各地域の事業所において産業医を配置もしくは医療機関と提携して、従業員の心身の健康維持・増進に取り組んでいます。

また国内では健康保険組合と協力し、「ブラザー健康生活月間」活動を実施し、一人ひとりが健康に関する目標を決め2ヶ月間実施することで、従業員や家族の健康づくりのきっかけとなる活動となっています。

従業員に配布したパンフレット

メンタルヘルスの予防・早期発見・疾患後ケアの仕組みづくりに注力

ブラザー工業では、2011年度に「第2期ブラザーメンタルヘルス計画 5ヵ年計画」を策定しました。予防対策を中心にした活動の継続とともに、今後さらにメンタル不調者を減らすためには、不調者が発生しにくい企業風土・職場環境を作っていく必要があります。そのためにこれまでの疾病管理の施策から人財育成やキャリア開発、仕事の達成感を得ることのできる職場づくりなど、人財戦略モデルに基づいた施策を策定し、2011年度より推進しています。

また、疾患後も十分なケアができるよう、産業医、保健師の増員や、復職のための支援活動など、対応力強化に努めています。その他にも、海外出向者及びその家族への健康面談、海外出向者・出張者を対象とした健康講習の実施などに取り組んでいます。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

グローバル憲章の共有

すべての活動の礎に―「ブラザーグループ グローバル憲章」の浸透

全従業員で共有するために積極的な浸透活動を展開

「ブラザーグループグローバル憲章」(以下グローバル憲章)は、グループ各社とグループ従業員の日々の意思決定と実行に関する基本方針と行動規範を定めたものです。グループ全従業員の活動の礎として共有されていることを目指し、継続的な浸透活動に取り組んでいます。

グローバル憲章を全従業員で共有していくための環境づくりとして、携帯用のポケット版グローバル憲章(26言語)とポスター、解説DVD(5言語)を各拠点に配布しています。また、イントラネットで内容の説明や経営層の思いなどを繰り返し発信するとともに、どのようなケースで自らの「行動」につなげるかを具体的に考えることができるように、各組織での実践状況や他社事例、更には、独自のケーススタディー集を共有しています。

26言語に翻訳し、全世界で共有

2011年度は、経営層によるグローバル憲章共有会議での「従業員との積極的な対話を！」という宣言から始まり、世界中で昨年度の2倍を超す、70回以上の対話が実施されました。また、経営層からのメッセージは、社内Webサイトを通じ、新たに加わったベトナム語と合わせて、9言語で共有されました。さらに社長の小池は、「Terry's　Video」と呼ばれるメッセージ動画の配信を、字幕対応を含めた3言語で昨年度に加えて9回行ない、多くの従業員はこの動画を見ながらグローバル憲章について議論し、理解を深めました。

一方、管理職はグローバル憲章に基づいたそれぞれのコミットメント(約束)を社内に公開し、その率先垂範に務めました。そして、グループ各社で任命された約330名の「グローバル憲章共有リーダー」は、各組織に合った計画を立て、事例を使った研修を中心とした活動を進めました。さらに、ITを活用したeラーニングによる全従業員への浸透活動も行われました。

社長、執行役員と従業員が語り合う場(グローバル)

各拠点で行なわれている研修

また、昨年度に引き続き、グローバル憲章の共有度調査を実施し、グローバルに73の拠点が調査に参画、約18,000名の従業員から回答がありました。

グループ全体の調査結果として、グローバル憲章を「理解している」「行動している」と答えた従業員の割合が昨年度を上回っており、グローバルでの共有が着実に進んでいると考えています。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

グローバル憲章の共有

ブラザー販売の新経営理念策定の取り組み

すべての人に“At your side.”を目指して

2011年5月、ブラザー販売株式会社(以下、ブラザー販売)は新しい経営理念を発表しました。この新経営理念は、ブラザーグループ全従業員の活動の礎である、「ブラザーグループグローバル憲章」に基づいて、ブラザー販売が叶えたい「ビジョン」・社会からの期待に応える「ミッション」・従業員が大切にする「バリュー」で構成されています。ブラザーグループのモットー “At your side.” をキーワードに、お客様をはじめとする社外の皆様への約束としてもこの理念を発信しています。

策定にあたり、各部門の若手が中心となり、ブラザー販売の強みやお客様に提供する価値について、経営層へのインタビュー・従業員全員へのアンケートを実施し、従業員の共感度やグローバル憲章との整合性など議論を繰り返しました。

策定後は、内容の理解と浸透のため、全国8事業所で、ブラザー販売社長の片山と従業員の直接対話が21回にわたって開催されました。新経営理念を表現したポスターや動画を見ながら、ビジョン・ミッション・バリューについて語り合い、理解を深めました。この動画は、全国7都市で行われたお取引先やメディア関係者向けの新製品展示会でも来場者の方々へ紹介されました。また　ブラザー販売公式Webサイト　にも掲載し、お客様をはじめ多くの関係者の皆さんにも広く見ていただけるようにしました。

ブラザー販売は今後も新経営理念の従業員への共有活動を推進し、ユニークな製品やソリューションの提供に努めてまいります。

新経営理念のポスター

片山と従業員の真剣な対話

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

従業員の「誇り度」向上推進

「ブラザーらしさ」を継承していくために

「チームブラザープロジェクト」

若年層従業員が徐々に増加する中、「ブラザーらしさ」をどう継承していくか、また、従業員の「誇り度」を向上させ、やりがいを持って働ける環境を維持するにはどうすればよいのか、これらの課題に取り組むために、ブラザー工業は2008年度「チームブラザープロジェクト」を立ち上げました。　このプロジェクトでは、従業員意識調査を通じ「誇り度」を向上させていくことを目標とし、活動を全社展開しています。従業員意識調査は、ブラザー独自の調査の仕組みですが、部門ごとに「誇り」に影響を与える要因を分析し、その結果から部門としての年間目標を掲げ、改善を継続し進めている点が大きな特徴です。

活性化活動や新製品エピソードを紹介する「お披露目会」の様子

「誇り」を実感できる会社を目指して

「チームブラザープロジェクト」では、活動を推進する役割を担う、ファシリテーターが全部門より選抜され、各部門での取り組みを進めると共に、全社例会で情報共有を図っています。この例会では、従業員意識調査の結果を踏まえた改善活動の共有や、各種事例をもとにしたディスカッション、会社業績を学ぶ機会などを設けています。また、2010年度からは全部門で「組織活性化」や「人材育成」に関わる目標を掲げ、部単位で取組みを進める仕組みが導入しています。

こうした活動は、グローバル憲章に示された「従業員にとって誇りのもてる企業」の実現に近づくものと捉えていますが、2012年1月の従業員意識調査では、過去最高の「誇り度」を達成することができました。今後も従業員ひとり一人が「誇り」を実感できるよう、取り組みの進化を図っていきます。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

従業員とともに

従業員の「誇り度」向上推進

働きがいのある会社ランキング、17位にランクイン

ブラザー工業は、3年連続で「働きがいのある会社」に選ばれました

ブラザー工業は、Great Place to Work® Institute Japan(以下、GPTWジャパン)による「働きがいのある会社」調査で、17位*1にランクインしました。ベストカンパニー30社に選ばれたのは、2010年に初めてこの調査に応募*2して以来、3年連続3回目となります。

ベストカンパニー30社に送られた認定のロゴ

この「働きがいのある会社」調査は、GPTWジャパンが参加企業にアンケートを実施し、その評価を行うものです。「従業員へのアンケート」と「会社へのアンケート」の二つが実施されますが、そのうち従業員の声がより重視される(評価の重みが全体の3分の2を占めます)、ユニークな調査です。
ブラザー工業が3年連続で高く評価された項目(ベストカンパニー30社の平均を上回る主な項目)は、以下のとおりです。

・この会社で長く働きたい、という意欲
・ワークライフバランスを奨励している会社
・社会への貢献度が高い会社
・温かい雰囲気の会社

ブラザーグループが進める「CSR経営」は、ステークホルダーの皆さんからの信頼を目指すものです。上記で高評価となった各項目は、私たちがお客様や社会に向け、継続的に信頼を積み重ねていくためにも大切なことと考えています。今後もこうした客観的な評価によって、自分たちの取り組みを振り返りながら、よりレベルの高い「働きがいのある会社」を、そして、従業員にとって誇りの持てる会社を目指していきます。

*1: 2012年 第6回　日本の「働きがいのある会社」ランキングについては、「GPTWジャパン」のサイト
http://www.hatarakigai.info/ranking/) でご覧いただけます。(「GPTWジャパン」のサイトへリンクします。)

*2: 評価方法など詳しくは「GPTWジャパン」のサイト
(http://www.hatarakigai.info/process/index.html) で確認できます。(「GPTWジャパン」のサイトへリンクします。)

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ビジネスパートナーとともに

ブラザーグループは、お客様に優れた価値を迅速に
提供するために、お取引先と常に
公平・公正な取引を行い、相互信頼関係を築いて
成長しあうことを目指します。

CSR調達の推進

・お取引先とともにCSR調達を推進
・調達方針、CSR調達基準
・CSR調達の推進に向けて珠海兄弟が勉強会を開催
・災害時の部品調達リスクを最小限に

お取引先の声

・ブラザーグループとの相互成長に向けて
・お取引先から

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ビジネスパートナーとともに

CSR調達の推進

お取引先とともにCSR調達を推進

「調達方針」と「CSR調達基準」を公開

ブラザーグループは、部品・材料を調達するお取引先の皆様にCSR調達の考え方を共有していただくために、2008年5月、Webサイトで「調達方針」と「CSR調達基準」を公開しました。これは、2001年度から取り組んでいる、環境に配慮した部品、材料を優先的に購入する「グリーン調達」を、さらに人権・労働、安全衛生、公正取引・倫理、品質・安全性、情報セキュリティー、社会貢献などの分野に広げたものです。また、ブラザーグループではCSR調達説明会とCSR勉強会を開催して、お取引先のCSR活動推進を支援しています。

調達方針

・すべてのお取引先に対して、公平・公正な取引を行います。
・活動する国や地域における関連法規、規則を順守し、お取引先と相互信頼関係を築いて、成長し合うことを目指します。
・地球環境に配慮したグリーン調達を推進し、製品のライフサイクルを通じた環境への負荷を低減します。
・あらゆる場面でお客様を第一に考え、優れた品質と適正なコストの追求に努めます。

CSR調達基準 (お取引先へのお願い)

・すべての人の基本的人権を尊重し、不当な労働の強制、児童就労などは行わないでください。
・従業員の安全と健康を確保し、安全で働きやすい職場環境づくりに取り組んでください。
・地球環境への配慮に前向きに取り組んでください。
・関連法規、規則を順守し、公平・公正で最高度の倫理感を持った取引を行ってください。
・お客様に安全かつ優れた品質の製品をお届けするための仕組みづくりに、取り組んでください。
・情報管理体制を構築し、個人情報、機密情報を、適切に管理してください。
・地域社会に対する社会的・経済的・文化的責任を可能な限り分担することにより、よき企業市民となるよう努力してください。

▶英語版　調達の方針・基準　http://www.brother.com/en/csr/partner/purchase/index.htm#02
▶中国語版　調達の方針・基準 ttp://www.brother.com/cn/csr/partner/purchase/index.htm#02

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ビジネスパートナーとともに

CSR調達の推進

CSR調達の推進に向けて珠海兄弟が勉強会を開催

お取引先9社がレクチャーやディスカッションを通じて理解を促進

2012年2月、家庭用ミシンやラベルライターなどを生産している珠海兄弟工業有限公司(以下、珠海兄弟)は、昨年に続いて「CSR調達勉強会」を開催しました。目的は“現地のお取引先にブラザーにCSR調達基準への理解を深めてもらい、CSR活動を広く実践していただくこと”にあり、今回は9社14名が参加しました。珠海兄弟の調達部門から、実際のCSR活動を例に勉強会の目的をレクチャー後、CSR活動の現状把握・課題の認識や、今後の取り組みの方向性などを探るグループディスカッションを行いました。

勉強会後のアンケート結果では、CSR活動への理解度・必要性・課題の認識ともに高く、珠海兄弟では“法規制と取り組み項目との関連への理解が深まった”と手応えを感じています。

参加者からは「良きパートナーとして、CSRの取り組みを改善・向上させ、ともに成長していきたい」「環境保全では法令遵守を基本に、省エネや廃棄物削減、排気・排水・廃棄物管理、オフィスでのペーパーレスなどを推進し、労働環境でもルールや制度を整備し、従業員代表との交流を通じて、より良い運営を目指す」などの決意が寄せられました。珠海兄弟では、今後も勉強会を継続するとともに、取り組みを奨励するCSR賞の選定・授与も続けていきます。

熱心に勉強会に取り組むお取引先の皆様

災害時の部品調達リスクを最小限に

東日本大震災を教訓に災害に強いサプライチェーン*の構築を

2011年3月の東日本大震災では、幅広い産業分野でサプライチェーンが寸断され、災害時のリスク対応に大きな課題を残しました。ブラザーグループでも震災の影響により部品調達の一部に支障をきたしたことから、これを教訓に災害に強いサプライチェーンの構築に向けて取り組みを進めています。

具体的には初動対応として、震災直後の3月に、関連部門からメンバーを集めた「震災対応コンカレント」チームを立ち上げました。調達に影響がある部品に対して、購買部などが取引先の情報収集や納期調整を行い、また開発部・製造部なども連携して代替部品を評価するなど、迅速な対応を進める事で生産への影響を最小限に抑える事ができました。

災害に強いサプライチェーンのあり方を
検討する震災対応メンバー

上記の対応以後は、購買部の震災対応メンバーが調達問題が生じた原因の分析を行い、“震災時に必要な最低限のあるべき姿”を策定し社内の関連部門と共有しました。また対応策については、部品のお取引先とブラザーグループがそれぞれの立場から検討を行いました。その結果、部品の汎用化や複数購買、部品を製造する拠点の複数化などを中心に現在は対応を進めています。

今後、お取引先の協力を得ながら、大規模な自然災害をはじめとする幅広いリスクを想定した調達マニュアルを早急に整備し、お客様やビジネスパートナーに一層安心いただけるサプライチェーンの構築に注力してまいります。

*: サプライチェーン:製品の原材料が生産されてから、最終消費者に届くまでのプロセス

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ビジネスパートナーとともに

お取引先の声

ブラザーグループとの相互成長に向けて

お取引先9社がレクチャーやディスカッションを通じて理解を促進

CSR調達は世界的な潮流であり、その定着・浸透は、企業を取り巻く社会的リスクを回避し、新たな顧客獲得の機会拡大にもつながります。この主旨をご理解いただき、ブラザーグループとの信頼関係を基盤に相互成長を目指すお取引先から、多くの声が寄せられています。

お取引先から

会社・地域社会・環境が持続できるよう貢献

Jiushuikeng Ushio Factory,Panyu,Guangzhou
馮 卓文 様

Brotherは従来から社会的責任をとても重要視している企業で、そのための取り組みも力強く推進してきました。我々はBrotherと一緒に前を向いて、改善を続け、魅力的な商品を生産・創出すると同時に、従業員・消費者・環境・地域社会などステークホルダーへの責任を自主的に果たしたいと考えています。弊社は現在CSR部門を設立すると同時に、省エネ・省資源及び環境保全、人間味のある会社管理においても有効的な措置を取っております。今後もそれらの取り組みを長期的に続け、会社・地域社会・環境が持続できるよう貢献していきたいと思います。

お客様のために価値を創造し続ける

SteelWell Industrial Hardware(ShenZhen)Corporation
趙 宏峰 様

ブラザーグループが提唱しているCSR活動には、主にコンプライアンス、環境保全、社会的責任の分担などの内容が含まれています。これらは世界的な流れであり、企業が持続できる条件の一つでもあります。

弊社は健康かつ持続的な成長を目指しています。我々のミッションは、優れた品質を持った軸類ユニットソリューション及びサービスを提供し、それを通じて市場への挑戦及び需要を注目することによって、お客様のために最大の価値を創造しつづけることです。会社が益々大きく成長していく過程においては、従業員の安全と健康を確保するとともに、従業員に安全且つ働きやすい良い雰囲気の職場環境を作り、地域社会に対する社会的・経済的・文化的責任を可能な限り分担し、良き企業になるよう努力していきます。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ビジネスパートナーとともに

お取引先の声

お取引先から

会社存続、繁栄に欠かせない事

MUTO TECHNOLOGY HANOI CO.,LTD
梅本 恭司 様

ムトーグループは品質方針「お客様の満足する製品を作ろう」、環境方針「取り組もう環境保全・大地の恵みを次世代へ」をスローガンに活動をしています。企業としてお客様への貢献、地球環境の保全、社員の幸せは基より近隣地区への活動も会社存続、繁栄に欠かせない事と考えます。弊社は数年前から近隣地区の施設、住民への貢献活動を行っています。それらを通じ共存共栄できる活動を続けています。CSR活動を理解し企業の社会的責任を果たせるよう努力し続けて行きます。

「品質第一、お客様第一」原則

Zhongshan Yaowei powder unit Ltd.
楊 燿廷 様

まずは、御社に長年ご支持頂いたことを深く感謝します。Brotherと協力関係を結んでからは、弊社は大変大きく成長しました。一緒に仕事している内に、沢山のことを学ばせて頂きました。

経済危機に直面する時でも、大胆に挑戦し、過去3年間で安定した成長を維持してきました。

昨年の売上は計1億人民元に達しました。我々は「品質第一、お客様第一」という経営方針を守ってきました。

ここ数年、中国の自動車製造業が著しく発展しています。我々はこのチャンスを掴むことに成功し、昭和・BOSCH、日立など数多くの優秀な自動車部品サプライヤーと協力して事業を展開しています。この協力関係を通じて、我々は沢山のことを学び、大きく進歩しましたが、企業の社会的責任を果たすことを忘れることはありませんでした。弊社は現在今年度の大学卒業生の採用を積極的に進めており、今後も実習生を育成する契約を一部の大学と結ぶ計画です。そのために、一部の作業現場を実習基地にする予定です。

将来、ブラザーに更なる良きサービスを提供できるよう最大の努力をし、更に多くの取引を期待しています。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ビジネスパートナーとともに

お取引先の声

過去の掲載

あらゆる場面でお客様を第一に

珠海神模精密電子有限公司
章 振隆 様

ブラザーグループと、ビジネスの面で長期的な協力関係を結べたことに対して、弊社は大変光栄に思っています。ブラザーグループにとって信頼できる忠実なビジネスパートナーとして、弊社はブラザーグループが提唱しているCSR活動を積極的に取り組んでいます。あらゆる場面でお客様を第一に考え、もの造りを通して優れた価値を創造し、高い品質の製品を高い効率かつ納期厳守でお客様に提供すること。従業員にとって安全で働きやすい職場環境を提供し、密接なコミュニケーションと交流をし続けること。所属する地域に貢献し、地域社会に対する経済的・文化的責任を可能な限り分担すること。これらにより、共に成長して、良き企業となるよう努力しています。

社会的な責任を果たすことを約束

FERRICO CORPORATION
黄 中元 様

地球を守り、資源を大切にし、人権を尊重することは、CSRの基本要旨であります。ブラザーのCSR活動を深く広く展開し続けることによって、この素晴らしい理念を世界の隅々まで広げていくことができます。社会に対する責任感を持つことによって、企業は永遠不滅が実現できます。これは弊社従来の企業理念でもあります。

ブラザーのCSR活動に協力し、一企業としての社会的な責任を果たすことを約束します。CSR活動の経験を生かすことによって、自分達を進化させ、良き社会的なイメージを確立させ、会社経営の良い循環のため堅い土台作りにつなげていきます。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

ビジネスパートナーとともに

お取引先の声

過去の掲載

社会の持続的な成長・発展への貢献を目指して

Sumidenso Vietnam Co., Ltd.
大淵 隆平 様

私どもは、2004年にベトナム・ハイズン省で創業以来、住友電装グループの「Connect with the Best」の精神に則り、「社業の繁栄を通じて、従業員、出資者、社会に貢献する」を会社の基本理念として参りました。特に、労働集約型ハーネス会社としてこの国の次世代を担う地域の若い従業員達に「モノ創り」の素晴らしさを伝えていきたいと考えています。今後ともブラザー工業様と共に、地域社会に貢献して参りたいと思います。

共に成長していく、真のパートナーを目指して

志摩電子工業(マレーシア)
山川 勇人 様

我々の根幹であるモノ造りは人づくりから始まり、地球に優しいモノ造りを通じ、豊かな社会作りに貢献することを理念としております。この多民族社会マレーシアでの多様性を尊重し、公平公正な評価により、自信、誇り、安心感を持てることを基本としており、CSR活動を共有させて頂くことで更なる理解を深めております。これからもこの国で仕事をさせて頂いていることに感謝し、お客様を第一に考え、お役に立って行きます。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

株主とともに

ブラザーグループは、株主からもたらされた資本を活かし、
継続して企業価値を高めるとともに、
積極的な情報公開を行い、
株主との間に長期的な信頼関係を築きます。

IRコミュニケーション

・株主・投資家とのコミュニケーション

外部からの評価

・社会的責任投資株価指数

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

株主とともに

IRコミュニケーション

株主・投資家とのコミュニケーション

積極的な情報開示

ブラザーグループは、株主・投資家の皆さまへの情報提供の機会を増やし、最新の情報を分かりやすくお伝えすることによって、企業の透明性向上に努め、長期的な信頼関係を結べるよう努めています。

株主の皆さまに対しては、年4回株主通信をお届けし、ブラザーの業績や最新の話題をお伝えしています。また、機関投資家・証券アナリストの皆さまに対しては、社長自らが説明を行う決算説明会を年2回開催しているほか、積極的に個別訪問や取材対応を行っています。個人投資家の皆さまに対しては、証券取引所主催のIRセミナーなどで積極的に事業内容や戦略の説明などを行うとともに、各地の証券会社支店での会社説明会も行っています。

今後も、より多くの株主・投資家の方とコミュニケーションをとる機会を作り、積極的な情報開示を行っていきます。

ブラザー工業は、2012年6月26日(火)に、「第120回定時株主総会」をマリオットアソシアホテル名古屋(愛知県名古屋市)において開催し、531名の株主の皆さまにご出席いただきました。本総会では、2011年度のブラザーグループの事業状況の報告や2012年度の業績見通しに関する説明を行い、議案審議では、多くの株主の皆さまからご賛同を得て、原案通り承認可決されました。

また、総会終了後に、株主の皆さまが当社経営陣と直接対話する「株主懇談会」を開催しました。懇談会場内には展示ブースを設け、プリンティング機器、家庭用ミシン、通信カラオケなどの製品展示のほか、新規事業として発表したクラウドサービス*のポータルサイト「Brother Online」やWeb会議「OmniJoin」、シースルー型ヘッドマウントディスプレー「エアスカウター」のブースを設け、多くの株主の皆さまに、実際に製品、サービスを体験いただきました。また、ブラザーグループの震災復興支援についてご紹介したパネルについても、多くの方が足を止めてご覧になっていました。実際に製品を体験していただいたり、地域社会に対する貢献活動について説明を聞いていただいたりすることで、株主の皆さまと経営陣が直接コミュニケーションをとり、ブラザーグループについてより深くご理解いただくことができました。

第120回定時株主総会

株主総会終了後に行われた「株主懇談会」

*: クラウド・コンピューティング・サービスの略。従来、手元のコンピュータで管理・利用していたソフトウェアやデータを、大規模なデータセンターで保管し、必要に応じてインターネットを使って利用する方法

担当者から

ブラザーをより理解していただくために

ブラザー工業株式会社　コーポレートコミュニケーション部

江袋　雅博

株主・投資家の皆さまとお話しをする際には、できるだけわかりやすい言葉で、正確に説明することに注意しています。特に、創業の事業であるミシンから通信プリンティング機器へ大きく売上構成が変化し、業種も機械から電機に変わっていることをお伝えすると、驚かれる方が多くいらっしゃいます。一人でも多くの方に、「今のブラザー」をお伝えしていきたいと思います。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

株主とともに

外部からの評価

社会的責任投資株価指数

構成銘柄に4年連続で採用

ブラザー工業は、2011年9月1日付けで、モーニングスター株式会社の算出する「モーニングスター社会的責任投資株価指数(MS-SRI)*」の構成銘柄に4年連続で採用されました。

近年、投資家は、従来の財務分析による投資基準に加え、社会的な公正さや企業倫理、地球環境や社会貢献などに対し、責任を果たしているかを投資基準として捉えるようになってきました。

このような社会的責任投資(SRI : Socially Responsible Investment)が成長する中、ブラザーグループはCSR経営を推進し、積極的な情報公開に取り組んできました。

ブラザーグループはこれからも、中長期的な視野に立ってグローバルなCSR経営を推進することで、さらなる事業の成長を目指すとともに、「Brother」を、お客様をはじめとするすべてのステークホルダーから信頼されるグローバルなブランドとして確立いたします。

(「MS-SRI」のサイトへリンクします。)
http://www.morningstar.co.jp/sri/index.htm

*:「モーニングスター社会的責任投資株価指数」は、モーニングスター株式会社が算出する国内初のSRI株価指数で、国内上場企業約4,000社の中から、社会性に優れた企業と評価する150社を選定し、その株価を指数化したものです。
(記載されている情報は、2011年9月1日時点のものであり、予告なしに変更される場合があります。)

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

地域社会とともに

ブラザーグループは、所属する国や地域に対する
貢献を常に意識し、地域社会に対する
社会的・経済的・文化的責任を可能な限り
分担することによって、よき企業市民となるよう努力します。

グローバルな社会貢献活動

・ブラザーグループ全体で統一感を持った社会貢献活動を推進
・東日本大震災など、社会影響の大きい案件への対応

日本での社会貢献活動

・貸出機・展示機のファクスや複合機を非営利団体へ
・チャレンジ精神あふれる若手起業家を支援する
「東海若手起業塾」

米州での社会貢献活動

・がん患者の子供と家族への支援活動をサポート【カナダ】

欧州での社会貢献活動

・欧州で東日本大震災のチャリティー活動を実施

アジア・オセアニアでの社会貢献活動

・ブラザーグループが一体となり、
各地域のチャリティ・リレーに参加

中国での社会貢献活動

・従業員による「愛心(思いやり)」プロジェクト【中国】
・台弟工業が刺しゅうの技術教育を通じて職業訓練に貢献

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

地域社会とともに

グローバルな社会貢献活動

ブラザーグループ全体で統一感を持った社会貢献活動を推進

ブラザーグループでは、「所属する国や地域に対する貢献を常に意識し、地域社会に対する社会的・経済的・文化的責任を可能な限り分担することにより、よき企業市民となるよう努力する」という「ブラザーグループ　グローバル憲章」の考え方に基づき、各国・地域の拠点でさまざまな社会貢献活動を行っています。またブラザーグループ全体でよりグローバルに統一感を持った社会貢献活動を推進するため、下記の3つの活動を中心に、各国・地域の拠点と連携してグローバルに展開しています。

(1) 地球環境への配慮に関連した活動
(2) ブラザーグループの事業に関連した活動
(3) 「地域」「人づくり(従業員を含む)」を意識した活動

構成銘柄に4年連続で採用

2010年5月、ブラザーグループの環境活動を象徴するロゴ、スローガンとして「Brother Earth 」を策定しました。ブラザーグループはこのスローガンに基づき、企業活動のあらゆる面で地球環境への配慮に前向きで継続的な取り組みを行っており、その一環として2011年度も、環境保護団体の支援や従業員参加の森林保全活動などの環境社会貢献活動をグローバルに展開しました。

事業に関連した社会貢献活動としては、台湾の失業中の社会人を対象に職業訓練として刺しゅうの技術教育などを実施しました。また、子どもたちがグローバルなモノ創りを学べる活動として、ブラザー製品を活用した「モノ創り教室」を日本、マレーシアで実施しました。

「地域」「人づくり」を意識した活動としては、日本においては地域の活性化を目指す若手起業家を支援する「東海若手起業塾」への協賛を4年間継続して実施しています。またシンガポールでは青少年のストリートサッカー大会の支援を通じた健全育成を目指す活動などを実施しました。従業員のボランティア活動については、世界各地で開催されるがん患者を支援するボランティア活動に、日本・ニュージーランド・アメリカをはじめとした合計10拠点の従業員がそれぞれ参加するなど、各国・地域の拠点と連携したグローバルに一体感をもったボランティア活動の推進も図りました。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

地域社会とともに

グローバルな社会貢献活動

ブラザーグループ全体で統一感を持った社会貢献活動を推進

各国・地域の社会貢献活動事例(分野別)

活動分野	活動	活動拠点
地球環境への配慮に関連した活動	「Brother　Earth」のスローガンに基づく、環境保護団体の支援や従業員参加の森林保全活動のグローバルでの実施	ブラザー工業 各国・地域の製造・販売拠点
ブラザーグループの事業に関連した活動	製品を活用した、モノ創り教室の実施	・ブラザー工業 ・ブラザーインダストリーズテクノロジー(マレーシア)
	失業中の社会人を対象とした刺しゅう技術教育の実施	台弟工業股份有限公司
「地域」「人づくり」を意識した活動	起業を目指す人財を支援する「東海若手起業塾」	ブラザー工業
	青少年の健全育成を目指すストリートサッカー大会の実施	ブラザーインターナショナル(シンガポール)
	がん患者を支援するボランティア活動への従業員参加	・ブラザー工業 ・ブラザーインターナショナル(ニュージーランド) ・ブラザーインターナショナルコーポレーション(U.S.A.) ほか、海外販売拠点7社

東日本大震災など、社会影響の大きい案件への対応

2011年3月、日本で発生した東日本大震災による未曾有の災害に対して、ブラザーグループは、今回の地震により被災された方々への救済と被災地の復興に役立てていただくため、義援金として1億円を日本赤十字社へ拠出しました。またブラザーグループの従業員からも義援金が集められ、各国の赤十字社などへ拠出されました。日本では従業員ボランティアが中心となって、被災地で不足する物資の提供を従業員へ呼びかけ、収集した支援物資をボランティア団体を通じて被災地に届ける活動が実施されました。また、国内外の従業員やビジネスパートナー、お客様が手づくりのバッグを製作し、被災地の子どもに寄贈する活動も行われました。

ブラザーグループは被災地の一日も早い復興を心より祈念するとともに、今後も一丸となって、必要な支援、協力を行っていきます。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

地域社会とともに

日本での社会貢献活動

貸出機・展示機のファクスや複合機を非営利団体へ

ブラザー販売とNPOが協働で、社会福祉の現場や被災地にブラザー製品を寄贈

日本の販売拠点であるブラザー販売は、2010年から製品修理時のお客様への貸し出し用のファクスや複合機などを整備し、市民団体や福祉団体などに寄贈しています。これは、修理期間の短縮に伴い余剰となった貸し出し用製品を、社会で役立ててもらおうと始めた取り組みです。

2011年には入れ替えとなった店頭展示品も寄贈の対象としました。製品の整備は集中修理センターの「三重ブラザー精機」が担当し、発送費はブラザー販売が負担します。寄贈先の募集・選考には、寄贈プログラムを運営しているNPO法人「イーパーツ」のご協力をいただいています。

高校生が運営している非営利団体に寄贈されたプリンターが福祉活動などの戦力に(静岡県富士市)

2011年度は、第3回(6月～7月)・第4回(11月～12月)の募集活動を通じて、57団体に計146台のファクスや複合機を寄贈しました。

また、2011年5月～8月には、東日本大震災復興支援“がんばろう！NPO”プロジェクトで、同様の寄贈プログラムを実施。被災した非営利団体・復興を支援する非営利団体を対象に寄贈先を公募し、インクジェット複合機100台を58団体に寄贈しました。そして、寄贈決定の通知を受けた被災団体から「至るところガレキの山で滅入ることが多い中で、決定通知はとても嬉しいものでした」(6月：宮城県気仙沼市)と早々に礼状をいただき、関係者の大きな糧となりました。

ブラザーグループでは、今後もこの寄贈プログラムを継続してまいります。

▶「認定NPO法人イーパーツ」のWebサイト(http://www.eparts-jp.org/)（「認定NPO法人イーパーツ」のサイトへリンクします。）

寄贈先から届いた喜びの声

小規模の生活介護施設を運営しておりますが、皆明るく元気に毎日通ってきています。施設に通うみなさんは毎月の予定表を楽しみにしており、月半ばを過ぎると「今度の予定表は？」と催促があります。ご寄贈いただきました複合機で、沢山の楽しい予定をこれからも渡し続けることができるよう、努力していきたいと思っています。

社会福祉法人るぴなす会

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

地域社会とともに

日本での社会貢献活動

チャレンジ精神あふれる若手起業家を支援する「東海若手起業塾」

「東海若手起業塾」

近年、日本では多様な社会的課題の解決や地域の活性化などに ビジネスとして取り組む若者が増えています。しかし、ビジネスを成長させるための事業経験や人的ネットワークが不足しているために、さまざまな経営問題に解決策を見出せないこともあります。そこでブラザー工業は、2008年、本社所在地である東海地域の若手起業家を支援するために、起業家支援に取り組む国内の複数のNPOが協働で運営する「東海若手起業塾」への協賛を開始し、2011年3月までに合計15名の起業家を支援しました。この塾では、支援を希望する起業家に対して、事業戦略検討会を開催したり、消費者とともに製品開発する機会を提供するなど、それぞれの事業を成長軌道に乗せるためのさまざまな活動を実施しています。2011年4月には、第4期の支援対象者が募集されました。6月12日に、公開選考会が開催され、起業家支援に実績のある川北秀人氏(IIHOE代表)ら5名の審査委員による選考の結果、5名の起業家が選考されました。起業家はその後、2012年3月の最終報告会までの9ヶ月の期間「東海若手起業塾」の実行委員会とともに、ビジネスモデルや事業戦略の質の向上を目指しました。

東海若手起業塾に参加した若き起業家

「東海若手起業塾」の支援対象者と従業員との連携を推進

2010年度からは、「東海若手起業塾」の実行委員会による支援に加え、起業家とブラザー従業員の連携を深めることにより、支援の幅を広げてきました。

2011年1月にはブラザー工業の従業員食堂で、従業員が支援対象起業家の商品を購入できる「チャレンジ！マーケット」を開催しました。

実際に商品を購入した従業員は、お客様の立場で感じた商品の感想を起業家へフィードバックするなど、起業家の支援に協力しました。また2011年1月と2012年1月には「チャレンジ精神」や「お客様視点の大切さ」などをテーマに、支援対象起業家と従業員が意見交換をする「チャレンジ！フォーラム」を開催し、それぞれ起業家と従業員あわせて約100名が参加しました。ブラザーの従業員にとっても、仕事への熱意やチャレンジ精神を学ぶ良い機会になりました。

チャレンジ！マーケット

支援対象起業家の成長に着実に貢献

2009年9月には、東海若手起業塾に第1期生として参加した静岡県浜松市の「ヘアサプライPeer」代表者佐藤真琴さんが、抗がん剤治療などによる女性の脱毛をケアするビジネスで、第8回日本商工会議所女性起業家大賞の、スタートアップ部門特別賞を受賞しました。また、2010年4月には、第2期生として参加した岩井万祐子さんが、経済産業省と農林水産省が共同で取りまとめた「農商工連携ベストプラクティス30」に選出されるなど、東海若手起業塾の支援の成果は、起業家の成長に着実につながっています。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

地域社会とともに

米州での社会貢献活動

がん患者の子供と家族への支援活動をサポート【カナダ】

さまざまな募金活動に加え新たなプロジェクトも

ブラザーインターナショナルコーポレーション(カナダ)(以下、BIC(カナダ))は、小児がんに関する啓発活動団体Childhood Cancer Canada*(以下、CCC)を支援しています。CCCは小児がん患者およびその家族の生活向上を目指して、活動しています。

BIC(カナダ)は、これまで様々な募金活動を支援してきましたが、2月には社内募金活動「Matter of the Heart」を実施しました。これはBIC(カナダ)の従業員が、家族や友人に紙で作ったハートのカードへのサインを呼び掛けるとともに、募金をしてもらうもので、2週間にわたったこの活動で集められたサイン入りハートは額に納められ、集まった募金とともにCCCへ贈呈されました。

額に収められた紙製のハートと募金活動のメンバー

また、“小児がん患者の家族が直面する問題について広く認知されるようになれば”という願いを込め、インターネット上で小児がん患者とその家族に励ましの言葉を掛けてもらえるようカナダ全土に呼びかけるCCCの新たなプロジェクト「 Words of Hope 」(「Words of Hope」のサイトへリンクします。英語のみ)にも参加しました。

BIC(カナダ)は、がん研究の資金援助、およびがん患者を抱える家族への教育に力を入れ、また、がんを克服した子供たちに生存者奨学金給付も行っているCCCのプロジェクトに参加することを光栄に思っています。

*: CCCのWebサイト(www.childhoodcancer.ca.) (「Childhood Cancer Canada」のサイトへリンクします。英語のみ)

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

地域社会とともに

欧州での社会貢献活動

欧州で東日本大震災のチャリティー活動を実施

ジャパンデイを通じて日本へ義援金を募る

ブラザーグループでは、3月11日に発生した東日本大震災への復興支援の一環として、世界各国・地域のグループ会社の従業員が自発的に募金を行っています。欧州地域では、お取引先などからの募金も含め約4カ月間で9万6,000ユーロの義援金が寄せられました。

グループの販売拠点であるブラザーインターナショナル(ヨーロッパ)Ltd.(以下、BIE)とブラザーU.K. Ltd.(以下、BUK)は共同で「ジャパンデイ2011」を開催。日本文化を称えながら復興支援の義援金を募ったこのイベントは、イギリスのマンチェスター市にあるBIEで開催され、当日は従業員やお取引先の皆さんが参加しました。

会場では来場者が、数々の美しい着物を試着しながら着付けを学んだり、目の前で握られた寿司を楽しんだりしたほか、武道や組紐の実演、日本庭園の写真展示、日本の唱歌の弦楽四重奏による生演奏などの日本文化をさまざまな形で体験し、大変盛況なイベントとなりました。

イベントの準備には、BIEとBUKの従業員チームが奔走し、実演や文化交流ができるグループを懸命に探しました。その甲斐あって200人もの来場者は日本文化を十分に満喫でき、募金は1万5,350ポンドが集まりました。この募金額にBIEとBUKも同額の寄付を行い、合わせて3万700ポンドの義援金を日本に贈りました。

BIEとBUKが共同開催した「ジャパンデイ」

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

地域社会とともに

アジア・オセアニアでの社会貢献活動

ブラザーグループが一体となり、各地域のチャリティ・リレーに参加

24時間リレーを通じてがん患者との連帯感を共有

1985年、アメリカのワシントン州で、がん征圧を願う一人の医師が、患者と連帯感を共有し、患者へのサポートや治療研究の資金を集めようと、医師が24時間走る間に友人から寄付を募るイベントを開きました。この活動は、地域社会全体でがんと闘うための絆を育む「リレー・フォー・ライフ(命のリレー)」として世界に広がりました。ブラザーグループでは、10年以上前からブラザーインターナショナルコーポレーション(U.S.A)、ブラザーインターナショナル(ニュージーランド)Ltd.(以下BINZ)の従業員が、社会貢献活動の一環としてこのイベントに参加し、日本のグループ会社も2010年から参加しています。

10年前から「リレー・フォー・ライフ」に参加しているBINZ

各拠点の想いをつなぐ「ゴールデンリング」プロジェクト

2011年2月にアジア・オセアニアの販売拠点とその統括拠点であるブラザーインターナショナルは、シンガポールで開催された「アジア・パシフィックCSR会議」で、一体感を持って行うCSR活動として「リレー・フォー・ライフ」への積極的な参加を決めました。アメリカや日本も含め、毎月どこかで各拠点がこのイベントや類似のイベントに参加することで活動の軌跡は1本につながり、1年後には世界地図に美しいリングが描けることからこの活動は『ゴールデンリング』プロジェクトと命名されました。

ロゴマーク入り「タスキ」が参加国の従業員に引き渡され、国旗の刺しゅうが追加された

こうして、5月にアメリカからスタートしたリレーは、アジア、オセアニア、日本だけでなく南アフリカにまで及びました。この間、2010年に家庭用ミシンや刺しゅうミシンなどを扱うP&Hカンパニーの有志がミシンで手作りしたブラザーのロゴマーク入りの「タスキ」が次々と参加拠点にリレーされ、そのたびにその国の国旗が新たに刺しゅうされるなど、各拠点のグローバルなつながりも感じることができました。そして、このイベントを通じて集まった募金は、各国のがん撲滅運動組織・研究機関・患者支援団体などに寄付されました。

ブラザーグループでは、今後さらにこの活動を拡充し、グローバルチーム・ブラザーとして「ゴールデンリング」の輪を広げていきます。

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

地域社会とともに

アジア・オセアニアでの社会貢献活動

ブラザーグループが一体となり、各地域のチャリティ・リレーに参加

「ゴールデンリング」プロジェクト (2011年度)

香港 (11月)

フィリピン (12年2月)

ニュージーランド (12年3月)

U.A.E. (10月)

アメリカ (5月)

オーストラリア (10月)

マレーシア (7月)

日本 (9月)

南アフリカ (9月)

シンガポール (7月)

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

地域社会とともに

中国での社会貢献活動

従業員による「愛心(思いやり)」プロジェクト【中国】

児童福祉施設に夢を織り込んだクリスマスプレゼントを

中国の販売会社、兄弟(中国)商業有限公司(以下、BCN)では、ミシンを活用した従業員参加型の社会貢献プログラムとして「Brother愛心繍坊(ブラザー思いやり刺しゅう工房)」を立ち上げました。その最初の活動として、2011年12月、上海にある児童福祉施設の子どもたちに、雪だるまのワッペンを縫いつけたタオル100枚とブラザーミシン2台を寄贈しました。

この施設は、障がいのある子どもや孤児を養育する歴史ある福祉施設で、600人以上の子どもたちが暮らしています。BCNの従業員たちは、夢のあるクリスマスプレゼントを届けようと、刺しゅうミシンで愛らしい雪だるまのワッペンをつくり、それをタオルに縫い付けました。当日は、従業員がサンタクロースに扮して、子どもたちと一緒にクリスマスツリーを飾り、“ジングルベル”を歌ったり、ケーキをいただいたりして楽しいひと時を過ごしました。

BCNでは、今後もテーマを変えながら「Brother愛心計画(ブラザー思いやりプロジェクト)」として、毎年、心温まる活動を続けていきます。

まず雪だるまのワッペンを刺しゅうミシンで作成

BCN従業員がタオルにワッペンを縫い付けて
プレゼントが完成

サンタクロースに扮したBCN従業員からプレゼントを贈られた
子どもたちは大はしゃぎ

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

地域社会とともに

中国での社会貢献活動

台弟工業が刺しゅうの技術教育を通じて職業訓練に貢献

刺しゅうの技術を自立や就職の足がかりに

家庭用ミシンを生産する台弟工業股份有限公司(以下、台弟工業)は、2011年7月4日～9月8日、失業中の30名の社会人を対象に刺しゅうの技術教育を実施しました。これは台湾の高雄市政府労働局訓練センターの要請を受け、長栄大学と連携した職業訓練プログラムです。

プログラムでは、まず長栄大学が訓練生を募集し、販売・サービス・労働規則と倫理など75時間の基礎教育を行いました。次に、訓練生たちは台弟工業の縫製教室で、従業員の指導のもとブラザー刺しゅうミシンの操作を学び、作品づくりに取り組みました。訓練生の全員がミシンを使うのは初めてでしたが、毎日朝8時から午後1時まで実習を繰り返すうちに作業に熱が入り、夕方までミシンを動かす人も続出しました。

そして、175時間の訓練を終えた時には、台弟工業の従業員も感心するほどの出来映えの作品を完成させることができました。現在では卒業した訓練生のうち3名がミシンを購入して起業し、他の訓練生は刺しゅう関連の仕事に従事しています。

従業員指導のもとで熱心に刺しゅうに取り組む訓練生、下は完成した作品

合計250時間の教育訓練を終えた訓練生と台弟工業の指導員

ⓒ2012 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.